目　次

関係法令　法律，政令，府令，省令，規則，訓令，告示，官庁報告，公告，通達，文部省共済組合定款の一部改正について……1

学内規程　学則の改正，教育薬学工学3学部規程改正，物品管理事務取扱規程細則の改正……4

人事異動……7

総合情報……15

第九回卒業式……15

昭和36年度入学試験……16

昭和36年度入学式……16

経営短大の入学試験と入学式……17

各学部長改選……17

昭和36年度科学研究費交付金等の採択決定……17

昭和36年度内地研究員……18

長期研修者……18

昭和36年度科学教育研究室開設……19

大学後援会の総会……19

各課長の更迭……20

村上，藤野，寺西，鈴木の各転任課長

小原，五十嵐，山田，紺野の各転出課長

停年退職の諸教官……21

土生，南日，井上，大西の諸教官

武石教授の転出……22

広瀬助教授の退職……22

佐藤助教授の転出……22

小竹厚生係長の退職……22

岡崎教授，児島助教授の帰朝……23

山崎，養田両教授の外遊……23

三ツ野教授の逝去……23

大井，永原，酒井両教官学位取得……23

昭和35年度卒業生就職状況……23

レクリエーション便り……24

第七回大学祭……24

鶴居君の遺体発見……26

学部情報　文理学部　植木教授の受賞……26

日誌　本部庶務日誌……26

文理学部……27

教育学部……27

経済学部……28

薬学部……28

工学部……29

経営短大……30

職員住所異動ほか……30

特別寄稿……31

日本学術会議から大学図書館の整備拡充に関し政府に勧告　村上清造……31

滞米所感　児島毅……32

ドイツの大学　岡崎初雄……32

関係法令

法律

第41号　国立学校設置法の一部を改正する法律　36.3.31官報号外

第111号　国家行政組織法等の一部を改正する法律　36. 6. 2官報

第122号　教育職員免許法等の一部を改正する法律　36. 6. 8 〃

第132号　一般職の職員の給与に関する法律の一部を改正する法律の一部を改正する法律　36. 6.15 〃

第133号　国家公務員に対する寒冷地手当，石炭手当及び薪炭手当の支給に関する法律の一部を改正する法律　36. 6.15 〃

第139号　恩給法等の一部を改正する法律　36. 6.16 〃

第144号　学校教育法の一部を改正する法律　36. 6.17 〃

第145号　学校教育法の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整理に関する法律　36. 6.17 〃

第151号　国家公務員等退職手当法の一部を改正する法律　36. 6.19 〃

第152号　国家公務員共済組合法の一部を改正する法律　36. 6.19 〃

政令

第4号　国立学校設置法施行令の一部を改正する政令　36. 1.12官報

第76号　国立学校設置法施行令の一部を改正する政令　36. 4. 1 〃

第77号　国立大学の大学院に置く研究科の名称及び課程を定める政令の一部を改正する政令

36. 4. 1官報
第124号　文部省組織令の一部を改正する政令
36. 5. 1 〃
第141号　教育公務員特例法施行令の一部を改正する政令　36. 5.27 〃
第170号　国立学校設置法施行令の一部を改正する政令
36. 6. 2 〃
第200号　国家公務員等退職手当法施行令の一部を改正する政令　36. 6.19 〃
第201号　国家公務員共済組合法施行令の一部を改正する政令　36. 6.19 〃

省　令

文部第1号　国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令　36. 1.12官報
〃 第2号　文部省職員定数規程の一部を改正する省令
36. 1.19 〃
〃 第5号　日本学校安全会法施行規則の一部を改正する省令　36. 3.30 〃
大蔵第9号　支出官事務規程等の一部を改正する省令
36. 3.31 〃
文部第7号　国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令　36. 4. 1 〃
〃 第8号　国立大学の講座に関する省令の一部を改正する省令　36. 4. 1 〃
〃 第9号　国立の学校における授業料その他の費用に関する省令　36. 4. 1 〃
〃 第11号　国立の学校における授業料その他の費用に関する省令の一部を改正する省令
36. 5. 9 〃
大蔵第26号　支出官事務規程等の一部を改する省令
36. 5.25 〃
文部第15号　国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令　36. 6. 6 〃
大蔵第40号　国家公務員共済組合法施行規則の一部を改正する省令　36. 6.19官報号外
文部第17号　文部省設置法施行規則の一部を改正する省令　36. 7. 1 〃
〃 第18号　教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令　36. 7.25 〃

規　則

人事院9—22　暫定手当の一部を改正する規則
36. 3.15官報
〃 9—31　隔遠地手当の一部を改正する規則
36. 3.15 〃
〃 9—6　俸給の調整額の一部を改正する規則
36. 3.27 〃
〃 9—17　俸給の特別調整額の一部を改正する規則
36. 3.27 〃
〃 1—4　現行の法律，命令及び規則の廃止の一部を改正する規則　36. 3.28官報
〃 9—7　俸給等の支給の一部を改正する規則
36. 3.28 〃
〃 9—8　初任給，昇格，昇給等の基準の一部を改正する規則　36. 3.28 〃
〃 9—34　初任給調整手当　36. 3.31 〃
〃 2—6　人事統計報告の一部を改正する規則
36. 3.31 〃
〃 9—5　給与簿の一部を改正する規則
36. 3.31 〃
〃 9—7　俸給等の支給の一部を改正する規則
36. 3.31 〃
〃 1—5　特別職の一部を改正する規則
36. 4. 1 〃
〃 9—2　俸給表の適用範囲の一部を改正する規則
36. 4. 1 〃
〃 9—6　俸給表の調整額の一部を改正する規則
36. 4. 1 〃
〃 9—17　俸給の特別調整額の一部を改正する規則
36. 4. 1 〃
〃 9—30　特殊勤務手当の一部を改正する規則
36. 4. 1 〃
会計検査院第3号　計算証明規則の一部を改正する規則
36. 4. 3 〃
人事院9—2　俸給表の適用範囲の一部を改正する規則
36. 4.24 〃
〃 9—8　初任給，昇格，昇給等の基準の一部を改正する規則　36. 4.24 〃
〃 8—14　2箇月以内の任期を限られた職員等の任用に関する特例の一部を改正する規則
36. 6. 2 〃
〃 2—6　人事統計報告の一部を改正する規則
36. 6.15官報号外
〃 9—7　俸給等の支給の一部を改正する規則
36. 6.15 〃
〃 9—22　暫定手当の一部を改正する規則
36. 6.15 〃
〃 9—17　俸給の特別調整額の一部を改正する規則
36. 6.16官報
〃 9—31　隔遠地手当の一部を改正する規則
36. 6.16 〃
〃 16—0　職員の災害補償の一部を改正する規則
36. 7. 1 〃
〃 9—30　特殊勤務手当の一部を改正する規則
36. 7. 3 〃
〃 9—2　俸給表の適用範囲の一部を改正する規則
36. 7. 5 〃

訓　令

文部第1号　事務局に部を置く国立大学及び事務部に課を置く学部等を指定する訓令の一部を改正する訓令　36．4．1官報号外

告　示

文部第1号　昭和35年度後期学校図書館司書教諭講習実施要項を定める件　36．1.11官報

〃第4号　文部省共済組合運営規則の一部を改正する件　36．1.18 〃

大蔵第36号　出納官吏事務規程第16条に規定する外国貨幣換算率を定める告示の一部を改正する件　36．2.13 〃

文部第10号　学習帳基準を定める件　36．3.17 〃

大蔵第85号　大蔵大臣が特に指示する場合のほか，支出官事務規程第21条に規定する外国貨幣換算率を定める告示の一部を改正する件　36．3.31 〃

〃 第86号　出納官吏事務規程第16条に規定する外国貨幣換算率を定める告示の一部を改正する件　36．3.31 〃

労働第18号　一般職種別賃金を定める告示の一部を改正する件　36．4．3 〃

文部第38号　日本学校安全会法に規定する立入検査の場合の証明書の書式を定めた件　36．5．9 〃

行政管理庁第45号　学校設備調査の調査票の統計目的以外の使用について承認を行なった件　36．5.23 〃

文部第58号　昭和36年度学校図書館司書教諭講習実施要項を定める件　36．5.31 〃

〃 第65号　昭和36年度単位修得実施要綱　36．7.18 〃

〃 第66号　小学校，中学校又は高等学校において使用される教科用図書として検定を与えた図書を告示　36．7.20 〃

官庁報告

科学技術庁　放射線取扱主任者試験の施行について　36．2．1 〃

人事院　昭和35年度国家公務員採用中級試験合格者（東海・北陸地方）　36．2．6 〃

厚生省　第20回薬剤師国家試験の施行　36．2.15 〃

人事院　人事院規則9―34（初任給調整手当）に定める人事院の権限及び所掌事務の一部の委任に関し決定した件（人事院公示第1号）　36．4．1官報号外

厚生省　第20回薬剤師国家試験合格者　36．5.31 〃

文部省　昭和35年度国立大学卒業者　富山大学　36．6．9官報号外

〃　昭和36年度国立大学入学試験合格者　富山大学　36．6.10 〃

人事院　昭和36年度国家公務員採用初級試験公告　36．6.20 〃

科学技術庁　放射線取扱主任者試験の施行について　36．7．1 〃

公　告

○文部省共済組合定款の一部改正について　36．1.18官報

通　達

○文部省共済組合定款の一部改正について　（36.1.13文管福第402号）

○文部省共済組合運営規則の一部改正について　（36.1.13文管福第408号）

○国家公務員共済組合法の運用方針の一部改正について　（36.1.16国管第3号）

○行政運営の公正適実化について　（36.3.1国総第25号）

○暴力犯罪防止対策要綱について　（36.3.3国総第31号）

○日本学校安全会法施行規則の一部改正について　（36.3.31文体保第76号）

○国立の学校における授業料その他の費用に関する省令の制定について　（36.4.22文大大第261号）

○文部省組織令の一部を改正する政令について　（36.5.1文総審第49号）

○文部省共済組合貸付規程の一部改正について　（36.6.3文管福第183号）

文部省共済組合定款の一部改正について

文部省共済組合定款（昭和33年6月30日制定）の一部が改正になり，昭和35年4月1日から適用されることになった。

主な改正点は，共済組合法第52条に規定する付加給付の制度が当共済組合で実施するためのものであり，給付内容は次のとおり。

1．家族療養費付加金

給付事由　被扶養者が入院した場合，ただし療養費の支給を受けない場合を除く。

給付額　入院中の期間1日につき 100円

2．出産費付加金

給付事由　出産費を支給するとき

給付額　1,000円。ただし，出産費の額が8,000円未満のときは9,000円と当該出産費の額との差額に相当する金額

3. 配偶者出産費付加金

給付事由　配偶者出産費を支給するとき

給 付 額　5,000円。ただし，配偶者出産費の額が4,000円未満のときは9,000円と当該配偶者出産費との差額に相当する金額

4. 育児手当金付加金

給付事由　育児手当金を支給するとき

給 付 額　育児手当金の額に相当する金額

5. 埋葬料付加金

給付事由　埋葬料を支給するとき（ただし，死亡者に被扶養者がないときは，埋葬に要した費用の額が埋葬料より多い場合に限る）

給 付 額　4,000円。ただし，前項括弧書の事由により支給するときは，4,000円の範囲内で埋葬に要した費用の額と埋葬料の額との差額に相当する金額

6. 家族埋葬料付加金

給付事由　家族埋葬料を支給するとき

給 付 額　6,000円

7. 結婚手当金

給付事由　組合員が結婚したとき

給 付 額　5,000円

学 内 規 程

富山大学学則の一部改正

富山大学学則の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和36年2月17日

富山大学長　梅　原　真　隆

別表（第1）中

薬学部	薬学科	薬化学講座，薬品分析化学講座，生薬学講座，製薬学講座，衛生化学講座，薬剤学講座，生物薬品化学講座 薬物学講座

を

薬学部	薬学科	薬化学講座，薬品分析化学講座，生薬学講座，製薬学第1講座，製薬学第2講座，衛生化学講座，薬剤学講座，生物薬品化学講座，薬物学講座

に改める。

附則の次に次の附則を加える。

附　　則　（昭和36年2月17日改正）

この学則（改正）は昭和36年2月17日から実施する。

富山大学教育学部規程の一部改正

富山大学教育学部規程の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和36年2月17日

富山大学長　梅　原　真　隆

別表（保健体育）の項中

衛生学	衛生学Ⅰ	2	2					2		2		
	衛生学Ⅱ	2		2								
	救急処置及び看護法	2		2							2	
学校保健	民族衛生及び衛生政策	2			2	2	2					
	健康教育Ⅰ	2	2					2		2		
	健康教育Ⅱ	2		2				2	2			

を

衛生学	衛生学Ⅰ	2	2					2		2		
	衛生学Ⅱ	2		2								
	救急処置及び看護法	2		2							2	
学校保健	民族衛生及び衛生政策	2			2	2	2					
	健康教育Ⅰ	2	2					2		2		
	健康教育Ⅱ	2		2				2	2			
特設科目												

に改める。

附則の次に次の附則を加える。

附　　則　（昭和36年2月17日改正）

この規程（改正）は昭和36年2月17日から実施する。

富山大学薬学部規程の一部改正

富山大学薬学部規程の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和36年2月17日

富山大学長　梅　原　真　隆

第13条中「専門課程については90単位以上」を「専門課程については93単位以上」に改める。

別表（1）中

	小　　計	59以上

小　　計	4以上

を削り，

薬化学	物理化学	3
	薬化学	7
	実習	3
	特別研究	（5）

を

薬化学	薬化学	7
	実習	3
	特別研究	（5）

に，

製薬学	製薬学	5
	機械工学	1
	実習	2
	特別研究	（5）

を

製薬学第1	無機製薬学	2
	物理化学(電気化学を含む)	4
	実習	2
	特別研究	(5)
製薬学第2	有機製薬学	3
	化学機械学	1
	実習	2
	特別研究	(5)

に改め，

小計	講義	64
	実習	26
合計		153

を削る。

附則の次に次の附則を加える

附　　則（昭和36年2月17日改正）

この規程（改正）は昭和36年2月17日から実施する。ただし，改正規定実施前から専門課程に在学中の者は，従前の規定による。

富山大学学則の一部改正

富山大学学則の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和36年4月10日

富山大学長　梅　原　真　隆

第50条中「工業化学科　160名」を「工業化学科　240名」に改める。

附則の次に次の附則を加える。

附　　則（昭和36年4月10日改正）

この学則（改正）は昭和36年4月10日から実施し，昭和36年4月1日から適用する。

富山大学物品管理事務取扱規程細則の一部改正

富山大学物品管理事務取扱規程細則の一部を次のように改正する。

昭和36年5月1日

富山大学長　梅　原　真　隆

別紙第14号様式を次のように改める。

別紙第14号様式

昭和　　年度物品保管状況報告書

第　　号

昭和　　年　　月　　日

物品管理官等　殿

物品出納官（官職氏名）印

下記のとおり物品保管状況を報告します。

記

分類	細分類	種類	品目	単位	現在高数量			
					供に物用適処す分る品	修を物繕要改す造る品	供のい用で物処き分な品	計

附則の次に次の附則を加える。

附　　則（昭和36年5月1日改正）

この細則（改正）は昭和36年5月1日から実施し，昭和35年12月14日から適用する。

富山大学工学部規程の一部改正

富山大学工学部規程の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和36年5月19日

富山大学長　梅　原　真　隆

別表（1）中　工業化学科を次のように改める。

工業化学科

学科目	単位数	学科目	単位数
専攻科目		関連科目	
繊維工業化学	1	電気工学概論	3
燃料工学第1	2	機械工学概論	3
燃料工学第2	2	金属工学概論	3
油脂工業化学	2	工業英語	2
工業化学計算	3		
有機材料化学	3	体育	1
有機工業電気化学	1		
有機合成工業化学	6		
アセチレン系工業化学	4		
合成樹脂	4		
有機化学	5		
分析化学	4		
無機化学	4		
工業電気化学	4		
酸・アルカリ肥料化学	4		
珪酸塩工業化学	4		
物理化学	4		
応用コロイド化学	3		
応用触媒化学	3		

化学工学	4		
化学工場設計一般	2		
化学工場設計各論	2		
工業化学設計製図	2		
工業分析化学実験	4		
工業物理化学実験	3		
工業有機化学実験	3		
有機化学実験	3		
工業化学特論			
工業化学輪読	2		
卒業論文	12		

備考　工業化学特論の単位数は必要に応じて定める。

別表（1）中　金属工学科を次のように改める。

金属工学科

学科目	単位数	学科目	単位数
専攻科目		関連科目	
金属組織学	4	無機化学	4
鉄鋼材料学 第1	3	分析化学	4
鉄鋼材料学 第2	2	電気工学概論	3
金属物理学	1	工業化学概論	3
物理冶金学実験	1	品質管理	2
放射線工学	1	機械工学概論	3
金属加工学 第1	2	酸・アルカリ肥料化学	2
金属加工学 第2	2	応用物理学	3
金属加工学 第3	2	自動制御	2
金属加工学 第4	2	工業英語	2
非鉄金属材料学 第1	1		
非鉄金属材料学 第2	2	体育	1
非鉄鋳造	2		
鉄鋼鋳造	4		
金属加工学実験	2		
材料試験実習	1		
選鉱学	2		
金属工学概論	3		
理論冶金学	2		
鉄冶金学 第1	2		
鉄冶金学 第2	2		
鉄冶金学 第3	2		
耐火材料	2		
冶金実験	2		
非鉄冶金学 第1	2		
非鉄冶金学 第2	2		
非鉄冶金学 第3	2		
電気製鉄及び製鋼	2		
電気冶金学	3		
金属工学設計法	2		
材料試験法	2		
機械設計製図	2		
機械工作法大意	2		
機械実習	1		
材料力学	2		
定性定量分析実験	1		
冶金分析実験	2		
冶金機械学	2		
燃料工学 第1	2		
燃料工学 第2	2		
物理化学	4		
応用鉱物学	2		
金属工学特論			
卒業論文	10		

備考　金属工学特論の単位数は必要に応じて定める。

附則の次に次の附則を加える。

附　　則（昭和36年5月19日改正）

この規程（改正）は昭和36年5月19日から実施し，昭和36年4月1日から適用する。

富山大学学則の一部改正

富山大学学則の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和36年6月30日

富山大学長　梅　原　真　隆

第31条中の表を次のように改める。

年額	区分
金　9,000円	昭和31年4月1日以降の入学者
金　6,000円	昭和31年3月31日以前の入学者

第33条に次のただし書き加える。

ただし，授業料の未納，死亡または行方不明のため除籍した場合は未納の授業料の全額を免除することができる。

第35条第2項を次のように改める。

2　転入学，編入学，再入学，または学士入学（以下「転入学等」という。）の場合においても，前項に準じ検定料及び入学料を徴収する。授業料の額は，その者が転入学等をした当該年次の在学者の額と同額とする。ただし，前期または後期の中途において転入学等をした者から前期または後期に徴収する額は授業料の年額の12分の1に相当する額に転入学等の日の属する月から次の徴収の時期前までの月数を乗じて得た額とし，転入学等の日の属する月に徴収するものとする。

第35条第4項中「入学考査を行うときは」を「入学を許可するための試験，身体検査，書面その他による選考等を行ったときは」に改める。

第36条を次のように改める。

第36条　授業料の徴収期において学業優秀であり，かつ，経済的理由によって授業料の納付が困難である場合，または学生もしくは当該学生の学資を主として負担している者が風水害等の災害を受け授業料の納付が困難なため授業料の全額または半額の免除もしくは納付の猶予を受

けようとするときは，別に定める書類を添付して毎学期授業開始前までに学部長を経て学長に願い出なければならない。

第72条中第3項を第6項とし，第2項の次に次の3項を加える。

3　前項の規定にかかわらず当該年度内に納付すべき寄宿料の総額または一部を前納することができる。

4　授業料の未納，死亡または行方不明のため除籍した場合は未納の寄宿料の全額を免除することができる。

5　学生または当該学生の学資を主として負担している者が風水害等の災害をうけ，寄宿料の納付が困難なため寄宿料の免除を受けようとするときは第36条に準じ願い出なければならない。

附則の次に次の附則を加える。

附　　則（昭和36年6月30日改正）

この学則（改正）は昭和36年7月1日から実施する。

人事異動

現官職	氏名	異動内容	発令年月日
大阪大学産業研究所講師	横山泰	助教授（文理学部）に昇任させる	36. 1. 1
事務補佐員（教育学部）	板谷忠良	事務員に配置換する	〃
技能員（〃）	松下てる	技能員に配置換する（定員内）	〃
	神戸寿々代	炊婦（教育学部附属小学校）に採用する 任期は昭和36年3月23日までとする	36. 1. 9
	家納トミ子	炊婦（教育学部附属小学校）に採用する 任期は昭和36年3月23日までとする	〃
東京大学教授	近角聰信	講師（文理学部）に併任する 任期は昭和36年3月31日までとする	36. 1. 10
東北大学教授	広根徳太郎	〃	〃
東京大学教授	菅孝男	〃	36. 1. 11
事務官（教育学部）	高崎公文	経営短期大学部事務係長に昇任させる	36. 1. 16
事務補佐員（経済学部）	山本道弘	経営短期大学部に転任させる	〃
〃	土池春樹	〃	〃
用務員（経済学部）	大西圭造	用務員（経営短大）に配置換する（定員内）	〃
臨時用務員（経営短大）	五十嵐清平	用務員（経済学部）に配置換する	〃
警務員（文理学部）	篠原松次郎	休職の期間を昭和36年4月16日まで更新する	36. 1. 17
教務員（文理学部）	高畠丈夫	文部技官に任官させる	36. 2. 1
〃（工学部）	品川不二雄	文部技官に任官させる	〃
事務員（教育学部）	島田政信	文部事務官に任官させる	〃
〃（経済学部）	野上泰男	〃	〃
〃（薬学部）	野島富美子	〃	〃
〃（工学部）	酒井睦夫	〃	〃
	佐伯光雄	事務補佐員（薬学部）に採用する 任期は昭和36年3月31日までとする	36. 2. 10
	安部吉孝	〃（教育学部附属小学校）に採用する 〃	〃
	大房進	〃（教育学部附属中学校）に採用する 〃	〃
事務補佐員（文理学部）	長沢義男	事務員に配置換する	36. 2. 16
	青島与	講師（工学部）に採用する 任期は昭和36年3月31日までとする	36. 2. 20
教務員（文理学部）	高畠丈夫	辞職を承認する	36. 2. 28

施設課長	山田啓祐	北海道大学施設課長に配置換する	36. 3. 1
〃	〃	講師（教育学部）の併任を解除する	〃
福井大学施設課企画係長	寺西礼一	富山大学施設課長に昇任させる	〃
助教授（薬学部）	桜井謙之介	教授に昇任させる	〃
〃	倉田軍一	〃	〃
〃	山崎高応	〃	〃
	加賀見実	事務員（工学部）に採用する	36. 3. 16
助手（工学部）	安川三郎	助教授に昇任させる	〃
教務補佐員（薬学部）	鈴木恵子	辞職を承認する	〃
事務員（工学部）	中島澄子	休職の期間を昭和36年9月21日まで更新する	36. 3. 21
助教授（教育学部）	広瀬コヒサ	辞職を承認する	36. 3. 31
事務補佐員（〃）	水野間哲	〃	〃
教授（〃）	溝上茂夫	教育学部長に併任する 任期は昭和38年3月31日までとする。評議員に併任する 任期は昭和38年3月31日までとする	〃
〃（経済学部）	城宝正治	経営短期大学部教授に併任する 任期は昭和37年3月31日までとする	36. 4. 1
〃	〃	経営短期大学部主事に併任する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
〃（工学部）	森棟隆弘	評議員に併任する 任期昭和37年3月31日までとする	〃
〃	野路末吉	評議員を免ずる	〃
	清水寛	事務員（教育学部）に採用する	〃
事務員（教育学部）	島田政信	文理学部に配置換する	〃
〃（文理学部）	長沢義男	教育学部に配置換する	〃
事務官（〃）	今枝武	〃	〃
〃（教育学部付小）	浦田隆志	〃	〃
〃（教育学部）	中村恵二	教育学部付属小学校に配置換する	〃
助手（工学部）	古谷嘉志	講師に昇任させる	〃
〃	高辻雄三	〃	〃
〃	中谷秀夫	〃	〃
事務補佐員（教育学部）	御福隆	文理学部に配置換する	〃
助手（経済学部）	吉原節夫	講師に昇任させる	〃
教授（経済学部）	武石勉	大分大学教授に配置換する	〃
庶務課長	小原太嘉之助	熊本大学庶務課長に配置換する	〃
会計課長	五十嵐尚	神戸大学会計課長に配置換する	〃
信州大学文理学部事務長	鈴木定次郎	富山大学学生課長に配置換する	〃
学生課長	紺野定三	静岡大学厚生課長に配置換する	〃
和歌山大学会計課長	藤野博次	富山大学会計課長に配置換する	〃
文部省大臣官房人事課給与班第四係長	村上龍太	富山大学庶務課長に昇任させる	〃
講師経済学部	横山静祺	助教授に昇任させる	〃

〃	海道勝稔	〃	〃
助手（薬学部）	大浦彦吉	〃	〃
助教授（工学部）	四谷平治	教授に昇任させる	〃
〃	位崎敏男	〃	〃
〃（薬学部）	三ツ野間治	〃	〃
教授（経済学部）	花井益一	経済学部長に併任する 任期は昭和38年3月31日までとする。評議員に併任する 任期は昭和38年3月31日までとする	〃
事務官（附属図書館薬学部分館長）	村上清造	助教授（薬学部）に併任する	〃
	広瀬喜七郎	講師（教育学部）に採用する	〃
	田村茂夫	経営短期大学部助手に採用する	〃
	飯田修三	〃	〃
	坂下和子	教務員（工学部）に採用する	〃
	佐藤恭一	助手（工学部）に採用する	〃
	能登谷久公	〃	〃
	藤谷喜久子	講師（教育学部）に採用する	〃
	立野昌郷	文部技官（文理学部）に採用する	〃
	山口博	講師（文理学部）に採用する	〃
文部事務官（工学部）	堀田吉太郎	教務員に配置換する	〃
〃（〃）	南立作	〃	〃
〃（〃）	高山藤一郎	〃	〃
技能員（〃）	稲垣日出男	技術員に配置換する	〃
助手　経営短大	長砂実	講師に昇任させる	〃
	森腰正弘	事務補佐員（薬学部）に採用する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
	大坪幸子	事務補佐員（工学部）に採用する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
	角井与志雄	技術補佐員（教育学部）に採用する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
事務補佐員（会計課）	平林富子	任用を更新する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
技能補佐員（庶務課）	河崎美智子	〃	〃
事務補佐員（文理学部）	湧井芳朗	〃	〃
〃（〃）	中田蠡昶	〃	〃
技能補佐員（〃）	河原健三	〃	〃
事務補佐員（教育学部）	御福隆	〃	〃
〃（経済学部）	奥田重男	〃	〃
〃（〃）	河崎輝子	〃	〃
教務補佐員（薬学部）	渡辺倭文子	〃	〃
事務補佐員（〃）	金兵和子	〃	〃
〃（附属図書館）	松島倶子	〃	〃
〃（附属図書館）	浜屋節子	〃	

〃　（　〃　）	森　淳　美	〃	〃
〃（教育学部，附中）	大　房　進	〃	〃
〃（　〃　附小）	安　部　吉　孝	〃	〃
〃　（薬学部）	佐　伯　光　雄	〃	〃
事務補佐員（附属図書館）	阿　部　恭　子	任用を更新する 任期は昭和37年３月31日までとする	〃
〃　（経営短大）	山　本　道　弘	〃	〃
〃　（　〃　）	土　池　春　樹	〃	〃
	米　村　長　敏	医師（事務局）に採用する 任期は昭和37年３月31日までとする	〃
	酒　井　美　昭	医師（文理学部）に採用する 任期は昭和37年３月31日までとする	〃
	福　田　博	〃	〃
	阿　部　清　一	医師（教育学部）に採用する 任期は昭和37年３月31日までとする	〃
	田　上　修	〃	〃
	福　田　実	〃	〃
	草　島　孫　三	〃	〃
	内　田　重　造	医師（経済学部）に採用する 任期は昭和37年３月31日までとする 医師（経営短期大学部）に併任する 任期は昭和37年３月31日までとする	〃
	米　村　長　敏	医師（薬学部）に併任する 任期は昭和37年３月31日までとする	〃
	松　田　三　知	医師（工学部）に採用する 任期は昭和37年３月31日までとする	〃
事務補佐員（教育学部附属小学校）	大　房　進	見習員に配置換する	〃
〃（教育学部附属中学校）	安　部　吉　孝	〃	〃
	高　野　嘉　一	技術補佐員（薬学部）に採用する 任期は昭和37年３月31日までとする	〃
	島　田　和　子	事務補佐員（工学部）に採用する 任期は昭和36年９月30日までとする	〃
	中　山　道　子	事務補佐員（工学部）に採用する 任期は昭和37年３月31日までとする	〃
	土　生　滋　穂	講師（経営短大）に採用する 任期は昭和37年３月31日までとする	〃
	沢　井　宗　隆	〃	〃
	ヒューブラウン	講師（文理学部）に採用する 任期は昭和37年３月31日までとする	〃
教　授（文理学部）	大　島　文　雄	講師（経営短大）に併任する 任期は昭和37年３月31日までとする	〃
〃　（教育学部）	入　沢　寿　夫	〃	〃
〃	沢　泉　重　夫	〃	〃
〃	山　本　健　麿	〃	〃
教　授（工学部）	加　藤　正	〃	〃
〃	井　上　浩	〃	〃
教　授（経済学部）	内　田　穣　吉	〃	〃
〃	三　国　一　義	〃	〃
〃	野　崎　富　作	〃	〃
助教授（教育学部）	山　淵　利　文	〃	〃
〃	田　中　久　雄	〃	〃
〃	頭　川　徹　治	〃	〃

助教授（経済学部）	石瀬秀治	〃	〃
〃	池田直視	〃	〃
〃	田中文信	〃	〃
〃	友杉芳春	〃	〃
〃	岩淵富治	〃	〃
〃	中村一彦	〃	〃
講師（教育学部）	有沢一男	〃	〃
	福田実	講師（教育学部）に採用する 任期は昭和37年3月31日までとする	36. 4. 6
	矢後正之	〃	〃
	小柳津三郎	〃	〃
	渡辺護	講師（教育学部）に採用する 任期は昭和36年9月30日までとする	〃
	矢納純三	講師（教育学部）に採用する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
	大沢多美子	〃	〃
	堀内陸郎	〃	〃
	奈賀隆雄	〃	〃
	原富慶太郎	〃	〃
	上子凱	講師（教育学部）に採用する 任期は昭和36年9月30日までとする	〃
	進野久五郎	講師（文理学部）に採用する 任期は昭和36年9月30日までとする	36. 4. 13
	林夫門	〃（教育学部）　〃 〃	〃
	長谷田裕作	講師（教育学部）に採用する 任期は昭和36年9月30日までとする	36. 4. 6
	小寺廉吉	〃	〃
	鮴谷喜兵衛	講師（教育学部）に採用する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
	太田正行	〃	〃
	石黒光雄	〃	〃
	嶋田重春	〃	〃
助教授（文理学部）	近藤堅二	講師（教育学部）に併任する 任期は昭和36年9月30日までとする	〃
文部技官（文理学部）	藤井昭二	講師（教育学部）に併任する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
教諭(教育学部附属中学校)	布村清太郎	〃	〃
〃	篁村ハル	〃	〃
助教授（薬学部）	松本弘一	〃	〃
教授（工学部）	村中利吉	講師（教育学部）に併任する 任期は昭和36年9月30日までとする	〃
金沢大学助教授	鈴木寛	〃	〃
新潟大学教授	萩屋薫	〃	〃
東北大学教授	深宮正範	〃	〃
技能員（工学部）	椿原重行	辞職を承認する	〃
教授（経済学部）	土生滋穂	昭和36年3月31日限り停年により退職した	36. 4. 1

〃　（教育学部）	井上音松	〃	〃
〃　（工学部）	南日実	〃	〃
講師（〃）	大西民生	〃	〃
	神戸寿々代	用務員（教育学部付属小学校作業員）に採用する	〃
	家納トミ子	〃	〃
技能員（工学部）	増岡愛子	技能員に配置換する（定員内）	〃
用務員（薬学部）	田屋世一	用務員に配置換する（〃）	〃
〃　（経済学部）	五十嵐清平	〃	〃
	手塚作治	用務員に配置換する（定員内）	36. 5. 1
金沢大学教授	松井清忠	講師（工学部）に併任する 任期は昭和37年3月31日までとする	36. 4. 10
助教授（教育学部）	田中久雄	講師（経済学部）に併任する 任期は昭和37年3月31日までとする	36. 4. 12
〃	金子基之	講師（経済学部）に併任する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
助手（教育学部）	石黒国雄	〃	〃
講師（〃）	有沢一男	〃	〃
金沢大学教授	越村三郎	講師（薬学部）に併任する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
東京大学教授	菅孝男	〃	〃
東京大学助教授	鶴藤丞	〃	〃
助教授（教育学部）	田中久雄	講師（薬学部）に併任する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
助手（〃）	石黒国雄	〃	〃
	塩岡貞次郎	講師（薬学部）に採用する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
	米村長敏	〃	〃
	武田正孝	〃	〃
	渡会春雄	〃	〃
	日南田義治	〃	〃
	田辺普	〃	〃
	野村芳郎	講師（理学部）に採用する 任期は昭和37年3月31日までとする	36. 4. 13
	大野芳太郎	〃	〃
	雪山俊之	〃	〃
	菊地靖雄	〃	〃
	滝沢弘	〃	〃
	中性哲	〃	〃
	進野久五郎	講師（文理学部）に採用する 任期は昭和36年9月30日までとする	〃
	原富慶太郎	講師（文理学部）に併任する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
	沢井宗隆	〃	〃
教授（教育学部）	林勝次	講師（文理学部）に併任する 任期は昭和36年9月30日までとする	〃
〃　（経済学部）	植村元覚	講師（文理学部）に併任する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃

助教授（教育学部）	頭川徹治	講師（文理学部）に併任する 任期は昭和36年9月30日までとする	〃
教諭（附属中学校教育学部）	布村清太郎	〃 任期は昭和37五3月31日までとする	〃
助教授（教育学部）	藤木興三	〃	〃
助教授（金沢大学）	山田琢	講師（文理学部）に併任する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
助教授（金沢大学）	木戸睦彦	〃	〃
講師（金沢大学）	都島文行	〃	〃
講師（金沢大学）	里見信生	〃 任期は昭和36年9月30日までとする	〃
教授（教育学部）	佐々亮	講師（文理学部）に併任する 任期は昭和36年9月30日　でする	〃
〃	入沢寿夫	〃	〃
〃	玉生正信	〃	〃
助教授（　〃　）	黒坂富治	〃 任期は昭和37年3月31日までと教する	〃
〃	田中久雄	〃 任期は昭和36年9月30日までとする	〃
〃	白井芳朗	〃	〃
〃（経済学部）	石瀬秀治	〃 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
〃	池田直視	〃 任期は昭和36年9月30日までとする	〃
講師（教育学部）	泉敏郎	講師（文理学部）に併任する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
〃	金子基之	〃 任期は昭和36年9月30日までとする	〃
〃	有沢一男	〃	〃
助手（　〃　）	石黒国雄	〃	〃
講師（　〃　）	安藤幸	〃	〃
金沢大学助教授	岩井隆盛	講師（文理学部）に併任する 任期は昭和36年9月30日までとする	〃
〃	三浦元俊	講師（経済学部）に併任する 任期は昭和37年3月31日までとする	36. 4. 15
警務員（文理学部）	篠原松次郎	休職の期間を昭和36年6月16日まで更新する	36. 4. 16
	近藤正男	講師（工学部）に採用する 任期は昭和37年3月31日　までとする	36. 4. 17
	宇津一郎	講師（工学部）に採用する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
	井上音松	〃	〃
	大西民生	〃	〃
	南日実	〃	〃
講師（教育学部）	金子基之	講師（工学部）に併任する 任期は昭和36年10月10日　までとする	〃
助手（　〃　）	石黒国雄	〃	〃
	上子凧	講師（工学部）に併任する 任期は昭和36年10月10日までとする	〃
助教授（文理学部）	永原茂	講師（工学部）に併任する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
教授（教育学部）	蜷川栄作	〃	〃
事務補佐員（附属図書館）	森淳美	辞職を承認する	36. 4. 18
〃	細川勝見	事務補佐員（附属図書館）に採用する	36. 4. 20
技能員（工学部）	中村ふさ	辞職を承認する	36. 4. 30

会計課用度係長	中島国衛	会計課長補佐に昇任させる	36. 5. 1
事務官（工学部）	竹岡環	会計課出納係長に昇任させる	〃
会計課出納係長	本田文治	〃 用度係長に配置換する	〃
	滋野康雄	事務補佐員（附属図書館）に採用する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
	沢井霊子	〃	〃
東北大学教授	今井勇之進	講師（工学部）に併任する 任期は昭和36年9月30日までとする	〃
	清水とし子	技能員（工学部）に採用する	〃
	八島百合子	事務補佐員（庶務課） 〃	〃
	岡正雄	講師（文理学部） 〃	〃
	大鹿譲	〃（ 〃 ） 〃	〃
	細井卓	〃（経済学部） 〃 任期は昭和36年7月1日までとする	〃
	山城章	〃（ 〃 ） 〃 任期は昭和36年7月1日までとする	〃
	田中憲三	〃（文理学部） 〃 任期は昭和36年9月30日までとする	〃
	久保村隆雄	〃（経営短大） 〃 〃	〃
	佐藤精一	〃（経済学部） 〃 〃	〃
	盛田律子	事務補佐員（経済学部）に採用する 任期は昭和36年4月31日までとする	36. 5. 4
講師（薬学部）	酒井立夫	助教授に昇任させる	36. 5. 15
助手（ 〃 ）	森田直賢	〃	〃
	小橋恭一	講師（薬学部）に採用する	〃
技官（薬学部）	中井昇	助手に昇任させる	〃
	中川紀美	事務員（工学部）に採用する	36. 5. 16
	松田秀雄	助手（工学部）に採用する	〃
	川村多実二	講師（文理学部）に採用する 任期は昭和36年9月30日までとする	36. 5. 20
国立公衆衛生院薬学部長	菰田太郎	講師（薬学部）に併任する 任期は昭和37年3月31日までとする	36. 5. 20
助教授（教育学部）	岩田弘	講師（経営短大）に併任する 任期は昭和37年3月31日までとする	36. 5. 26
	滝沢弘	辞職を承認する	36. 5. 31
	鈴木重威	講師（教育学部）に採用する 任期は昭和36年9月30日までとする	36. 6. 1
教授（文理学部）	植木忠夫	評議員に併任する 任期は昭和38年5月1日までとする	〃
〃	舘熙道	〃	〃
教授（教育学部）	佐々亮	〃	〃
〃	蜷川栄作	〃	〃
教授（経済学部）	三国一義	〃	〃
〃	内田穣吉	〃	〃
教授（薬学部）	志甫伝逸	〃	〃
〃	倉田軍一	〃	〃
教授（工学部）	上野亨	〃	〃

〃	村中利吉	〃	〃
	宮崎右人	用務員（教育学部）に採用する	〃
作業員（教育学部）	野田好一	休職を命ずる 休職の期間は昭和37年5月31日までとする	〃
助手（文理学部）	中山充	広島大学へ出向を命ずる	〃
	吉森美和子	事務補佐員（工学部）に採用する 任期は昭和37年3月31日までとする	36. 6. 1
助教授（文理学部）	川瀬義之	講師（経営短大）に併任する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
警務員（〃）	篠原松次郎	休職の期間を昭和37年6月16日まで更新する	36. 6. 16
	相良守峯	講師（文理学部）に採用する 任期は昭和36年12月30日までとする	36. 6. 10
助教授（文理学部）	近藤堅二	講師（教育学部）の併任を解除する	36. 6. 15
教務補佐員（薬学部）	渡辺倭文子	辞職を承認する	36. 6. 30
	妙見孟	助手（経済学部）に採用する	36. 7. 1
	金子倫子	事務員（工学部）に採用する	〃
	北辻栄太郎	文部技官（薬学部）に採用する	36. 7. 1
会計課課長補佐	伊東良一	辞職を承認する	36. 7. 2
厚生課厚生係長	小竹雀雄	〃	〃
教育学部学務係長	鎬木隆二	厚生課厚生係長に配置換する	〃
〃（附属図書館）	本田善彦	付属図書館閲覧係長に昇任させる	〃
付属図書館閲覧係長	塩谷孝雄	教育学部学務係長に配置換する	〃
技能員（庶務課タイピスト）	永森寿子	教育学部タイピストに配置換する	〃
〃（教育学部タイピスト）	渡辺登美枝	庶務課タイピストに配置換する	〃
助教授（薬学部）	飯田武夫	教授に昇任させる	33. 7. 10
事務員（附属幼稚員）	川井洋子	辞職を承認する	〃
	清水岑夫	教務補佐員（薬学部）に採用する	〃
技術員（工学部）	木谷文男	名古屋通商産業局へ出向させる	36. 7. 16
	岡田佳朋	技能員（工学部工務員）に採用する	〃
技術補佐員（教育学部）	角井与志雄	技術員に配置換する	〃
	平野幸子	事務補佐員（教育学部）に採用する 任期は昭和37年3月31日までとする	〃
	南部睦	助手（文理学部）に採用する	36. 8. 1

総合情報

第九回卒業式

3月20日第9回卒業式が挙行された。この日大学を巣立ったものは506名で内訳は次のとおりである。

文理学部	文学科	40	63名
	理学科	23	
教育学部	第一中等教育科	59	128名
	第一初等教育科	69	
経済学部			142名
薬学部			76名
工学部	電気工学科	25	97名
	工業化学科	28	
	金属工学科	22	
	機械工学科	22	

他に専攻科修了生は次の2名である

第2回経済学専攻科修了生　　1名
第8回薬学専攻科修了生　　1名

当日学長の送別の告辞は次のとおりである。なお吉田知事も来席され餞けの辞を送った。

学 長 告 辞

第九回の卒業式を挙行するに際し，吉田知事をはじめ各界の代表各位の御臨席下されたことをまことにありがたく御礼申し上げます。わが大学はここに各506名の卒業生諸君を社会におくり出しますが，諸君はまじめに勉強せられ優秀な成績をもって今日この最高学府を卒業せられることは，まことにおめでたい。私は尊敬とよろこびと愛をもってお祝する。さらにこの青年学生を育てあげられた全学の教官各位，家庭の保護者各位，および内外各位の並々ならぬ御尽力と御苦労に対して心から感謝いたします。

卒業生諸君は本大学における学習と教養生活を基礎として新しい日本を創りあげて下さることを期待する。新しい日本は平和な民主国家である。崇高な文化国家である。世界人類の最高理想を実現する国家である。われら日本人は全力を尽してこれを達成することを新憲法において内外に宣誓している。ところが内外の情勢を省みるとき，必ずしも実現に近づいていると思われない。ゲーテとおなじように「もっと光を」と叫ばずにはおれないのである。この際，期待されるのは諸君である。諸君は新しい憲法による新しい教育を完全に身につけてここに最高学府を卒業されるのである。諸君は新しい日本人として育てられたモデルケースである。諸君こそは新しい日本を創造すべき主人公である。諸君をおくり出すにあたり餞として四つのことを希望する。

第一　諸君は本学において真理を探求し，正義を把握する知性と徳性を身につけられた筈である。諸君はこれから社会に進出していよいよこの知性と徳性を高度にみがきあげて，正確に民衆思想を体得し平和生活の実現に献身せられることを希望する。

第二　諸君は本学において，人間の全貌を見届け，個人としての尊厳をたかめ，社会人としての教養をふかめられた筈である。諸君は排他利己のむさぼりと，暴力斗争のいかりを克服して，敬愛と和睦の明るい人生を開発されることを希望する。

第三　諸君は本学において優秀な伝統的遺産をうけつぎ，発溂たる前進的創造を学習された筈である。希くは保守反動に拘束されず，盲進独歩に脱線せず，力強く歴史的現実をふみしめて，一歩一歩豊かな人生を開拓されることを希望する。

最後に希望する。諸君は自重自愛せられて，身も心も健やかに生きぬいて下さい。低俗な享楽と慌しい乱歩にとりみだすことなく，秩序ある清潔な生活をいとなみ，人間にめぐまれた崇高な生命を活現せられることを希望する。

仏陀の「すべて人々に仏性がある」という遺教は，上野の寛永寺の鐘の銘として刻まれてある。カントの「私の頭の上に星の輝いている空と私の心の中にある道徳のおしえは考えれば考えるほど新しいおどろきと尊敬の心をおこさせるものがある」という遺言は，その銘となっている。諸君はこのめぐまれを，生命を，信知して自分を大切に取扱い，自分を誠実に活かされることを希望して，餞とする。

36年度入学試験

3月22日，23日の両日本年度入学試験が行われた。会場は例により経済学部は富山商業高校，薬学部は奥田中学の校舎を借りて行った。この両日は幸い天候に恵まれ，たださへ重くなる受験生の心を幾分でも軽くするに役立ったと思われる。ことしの募集人員，志願者数，受験者数及び合格者数は次に掲げるとおりである。

学部	学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学取消者数	補欠入学者数	入学者数
文理学部	文学科	40	337	216	50	8	0	42
	理学科	60	270	186	60	4	4	60
教育学部	第一中等教育科	75	234	169	61	7	0	54
	第一初等教育科	90	212	161	70	4	0	66
経済学部	経済学科	160	1,506	1,076	171	26	0	145
薬学部	薬学科	80	676	398	80	12	12	80
工学部	電気工学科	40	310	213	40	5	5	40
	工業化学科	60	388	251	60	5	5	60
	金属工学科	40	277	206	41	0	0	41
	機械工学科	50	362	245	50	5	5	50
合計		695	4,572	3,121	683	76	31	638

36年度入学式

入学式は恒例日の4月10日挙行された。今年度入学生は638名である。2，3日来のフエン現象による強風もどうやら治まって，この日新入生を迎えるには絶好の日和となった。講堂玄関前の桜樹は昨年はやや盛りを過ぎていたが，ことしは大雪による遅れもあって満開とは行かなかったが，かへって若い学徒を迎えるにふさわしい容色であった。10時開式，まづ梅原学長から大よそ次のような告辞が行われた。

「心よく晴れ上った本日，総べてのものを生かし育てる朗かな春光の照り輝やくうちに，新しく入学される683名

の諸君を迎えて，第13回の入学式を挙行することは，本学の最もよろこびとするところである。

入学式は，諸君にとってはまことに意義深い最高の学事であり，これから学生生活を展開せんとするにあたり最初に行わるる式典である。そして諸君の将来を位置づける大切な出発点でもある。

およそ，天と人の間に立って，この両者の関係を調整し，活殺するものは人間それ自身である。その人間の価値と使命を達成せしめ，真実の人間を形成せしむることはまことに厳粛な課題である。この課題を解決せしめんとするのが教育である」

と説きここでこの教育の基本理念と大学教育の使命の根本に触れて，教育基本法の第1条，学校教育法の大学教育の条項である第52条を援用してその内容の解明を行った後，

「富山大学においては，この2法の2つの条項が示す理念，目標に近づくべく，そしてこれに添った典型的学生像，進んで人間像を形成すべく努力しているが，諸君もまたこれに相応じて，富山大学の名誉にかけて，理想的学生生活を作り上げて行くことを希望してやまない。

いまや校庭の桜樹はらんまんの花の装いをこらして優しく諸君を招き，遠く望む立山連峰は白銀の冠を戴いて，厳粛に諸君を迎えている。諸君は朝な夕な，立山連峰の気高い姿を仰ぎ，親み，この秀いでた山容にふさわしい大学生として4年の生活を送って貰いたい」

と結んだ。

これに対して新入生の浜田輝靖君が答辞を述べて式を終った。

経営短大入学試験と入学式

経営短大の入学試験は4月2日経済学部で行われた。入学志願者数は207名であったが，試験当日の欠席者が29名あったから，受験者数は178名である。これは募集人員80名に対し2.2倍にあたる。この志願者のうちには7名の女子が含まれている。これは従来女子には縁のなかった経営学への女子の関心が高まりつつある傾向として注目に値する。

これら合格者94名は4月8日発表されたが，その入学式は4月16日10時から黒田講堂で行われた。式は約40分で終り，そのあとオリエンテーションに移った。

各学部長改選

教育学部長

教育学部長の任期は3月末日をもって満了となるので，選考規程の1ヵ月以前という定めに従って，2月15日同学部で選挙が行われ，溝上茂夫学部長が再選された。

経済学部長

城宝学部長の任期も3月末で終了するので，2月23日同学部で選挙が行われ，花井益一教授が当選した。花井部長は7代目である。花井教授はことし53才，和歌山県出身で昭和6年東京商大卒，和歌山女子専門学校，和歌山高商の教授を経て，26年文理学部経済学科に教授として迎えられ今日に至ったのである。

工学部長

南日学部長は別記のとおり停年制により3月31日限り退職せらるることとなったため，2月15日同学部で選挙が行われ，野路末吉教授が当選した。

野路新学部長は金沢市出身，昭和6年東北帝大理学部を卒え，東京工大助手を経て，三共会社に入り高峰研究所，三共活性炭の工場長を勤めて17年渡台，台南の南日本化学の工場長となったが終戦とともに帰還，21年高岡工専の教授となり，それが工学部となって今日に及んだ。

薬学部長

横田学部長の任期は8月23日で満了となるので，7月15日同学部で選挙が行われ横田学部長が当選した。これで大学創立以来連続5選となった。

文理学部長

高瀬学部長の任期は8月31日で満了となるので，7月14日同学部で選挙が行われ，高瀬教授が当選した。

昭和36年度科学研究費交付金等の採択決定

個人研究

本年度科学研究費交付金個人研究については，各学部から63名65件の応募申請があったが，結局次の12名12件の採択決定した旨の通知が5月17日付をもって本省大学学術局から通知があった。

学部	職名	氏名	講座	研究課題	交付金
文理	助教授	佐口　透	東洋史	ジュンガル（準噶爾）遊牧国家の歴史的研究	8万円
	〃	佐藤自郎	独文第一	Fraug Grillpargerの喜劇について	10〃
	教授	竹内豊三郎	化学第一	合金触媒の基礎的研究	24〃
	助手	堀　令司	生物第二	魚卵の受精付活に伴う電気的変化について	8〃
	助教授	梅原隆章	史学第一	漢方薬の史的文献的研究	10〃

経　済	助教授	中村一彦	法学第三	株式会社支配に関する一連の法律的研究	10 〃
	講　師	武　暢夫	経済第二	イギリス農業における資本主義の成立過程―16，17世紀における農民層の　分解	5 〃
	〃	飯原慶雄	経営第一	経営科学における数学的方法	5 〃
薬　学	助教授	飯田武夫	製　薬	Diopersed Sodiunの有機合成への応用研究	20 〃
工　学	教　授	村中利吉	機械工学第二	超音波振動が切削抵抗下に及ぼす要因について	22 〃
	〃	森棟隆広	金属工学第三	反射炉製鉄に関する研究	20 〃
	助教授	位崎敏雄	金属工学第二	金属砒化物の冶金学的研究	13 〃

機　関　研　究

機関研究の本年応募申請は次の1件で，これが5月12日付をもって採択決定となった。

薬学部　　教　授　　中沖太七郎　　交付金　　45万円

研究課題　　牛黄の生薬化学的及び薬理学的研究

科学試験研究費補助金採択決定

これについては6件の申出があったが，次の1件のみ採択となった。

薬学部　　教　授　　北川晴雄　　補助金　　50万円

研究課題　　含ハロゲン芳香環化合物の薬品的応用研究

昭和36年度内地研究員

本年度内地研究員は4月22日付をもって次のとおり採択が決定した。

文　理　学　部

・日南田俊二　　助手　　物理第二講座
　出向先　　御茶の水女子大学理学部
　研究題目　　簡単な分子の電子状態
　指導者　　教　授　　石黒英一

・松沢芳郎　　講師　　ドイツ文学第一講座
　出向先　　東京大学文学部
　研究題目　　19世紀初頭のドイツ文学（特にクライストを中心として）
　指導者　　教　授　　手塚富雄

教　育　学　部

・石黒国男　　助手　　体育学第二講座
　出向先　　東京教育大学体育学部
　研究題目　　身体運動における疲労について
　指導者　　教　授　　杉　靖三郎

・吉岡周明　　講師　　職業第三講座
　出向先　　京都大学工学部機械工学科
　研究題目　　密封軸受の運転性能
　指導者　　教　授　　佐々木　外喜雄

経　済　学　部

・武　暢夫　　講　師　　経済学第二講座
　出向先　　京都大学経済学部
　研究題目　　16―18世紀のイギリス農業史
　指導者　　教　授　　堀江英一

薬　学　部

・桜井謙之介　　教授　　薬剤学講座
　出向先　　東京大学薬学部
　研究題目　　医薬品の防カビ
　指導者　　教　授　　野上　寿

経営短期大学部

・水井謹作　　助教授　　英語
　出向先　　東京都立商科短期大学部
　研究題目　　英及び米両商業英語の言語学上の諸問題
　指導者　　教　授　　栗林定次郎

長期研修者

学報第20号に掲げた以後の長期研修者は次のとおりである。

文　理　学　部

技　官　　畠　脩三
出向先　　東北大学金属材料研究所
指導者　　東北大学教授　広根徳太郎
研究題目　　〝マンガン錫合金の強磁性相〟
期　間　　昭和35年9月1日～10月28日

薬　学　部

助　手　　金岡又雄
出向先　　九州大学医学部
指導者　　教　授　　西海枝東雄
研究題目　　〝チオセミカルバヂット関連化合物の合成研究〟
期　間　　昭和35年10月1日～昭和36年3月31日

助手	田上昇一郎
出向先	九州大学医学部
指導者	教授　西海枝東雄
研究題目	〝ピラチン関連化合物の合成〟
期間	昭和36年5月1日～10月31日

講師	小橋恭一
出向先	大阪大学微生物病研究所
指導者	薬学部教授　堀　三津夫
研究題目	抗ウレアーゼ剤の抗菌性との関連について

昭和36年度　科学教育研究室開設

本年度の科学教育研究室は関係者を集め5月16日開室の式を行ったが，前期は9月15日まで，後期は9月16日から12月15日までである。ことしも科学技術教育振興の趣旨に添ってか，次のとおり全部理科学関係にしぼられている。

室長	学長	梅原真隆
主事	学生部長	大島文雄

学部	学科目	実験非実験の別	研究生 勤務学校	職	氏名	本籍	生年月日出身学校	全日制定時制の別	前期後期の別	研究題目	指導員 職	指導員 指導員
文理学部	生物化学	実験	砺波市太郎丸 砺波高等学校	教諭	釣谷久仁子	富山	昭和7.5.17 奈良女子大学理学部化学科	定時制(1週1日)	前期及び後期	チューリップ色素に関する研究	教授	柴田　万年
	物理学	〃	黒部市三日市 桜井高等学校	〃	島田　博嗣	〃	大正15.9.11 立教大学大学院理学研究科中退	〃	〃	水素結合について	助教授	永原　茂
教育学部	蓄産学	〃	高岡市伏木一宮 伏木中学校	〃	松本　三次	〃	昭和8.9.9 富山大学教育学部 第一中等教育科	〃	〃	近郊農村の共同経営について（特に養鶏の共同経営化について）	〃	高森　乙松
	物理学	〃	東砺波郡中田町中田 中田中学校	〃	浅野　隆臣	〃	昭和7.6.27 富山大学教育学部　第一中等教育科	〃	〃	理科教具の研究と試作について	教授	沢泉　重夫
工学部	電子計測	〃	新湊市放生津 放生津小学校	〃	西守　由夫	〃	昭和6.11.10 富山大学教育学部第二初等教育科	〃	〃	ブラウン管オッシログラフ装置の取扱い方と活用について	〃	井上　浩
	電気化学	〃	氷見市柳田 西条中学校	〃	蔵　又三郎	〃	昭和10.11.19 富山大学教育学部第一中等教育科	〃	〃	水の電解における極板と電解の日逆性について	〃	横山　辰雄
	電気化学	〃	上新川郡大沢野町下大久保 大久保中学校	〃	西村　久孝	〃	昭和5.4. 高岡工業専学校化学工科	〃	〃	電気分解の機構の研究	〃	横山　辰雄
合計			7名								6名	

大学後援会の総会

6月9日（金）午前10時から黒田講堂で本年度総会が行われた。これより先，9時から階上の来賓室で役員会を開いて，総会に持ち出す議題の案件ならびに会運行についての協議をした。

この日出席役員は大学側の梅原名誉会長ほか各理事，山森副会長ほかの学外の理事8名であるが，このうちには前会長で前県知事の高辻武邦氏の顔が見えた。

定刻役員会を打ち切り一同総会場に臨み，村上理事の司会で始められた。参会の父兄は，夜来の雨は上ったものの，はっきりしない天候のためもあってか，約80名であった。

例により山森副会長が議長席についてまづ高辻氏の久し振りの来席を歓迎し，氏の本会創設の功を賛え，今日まで10年の順調な歩みに万足の意を表し，協力の父兄役員に感謝して，本会は全国立大学中にも異数の存在であることを自賛して，挨拶を終った。次いで田中事務局長の過去1年間の大学の概況につき説明があったが，局長はこのうちで集中計画進行について概況を次の如く述べている。即ち文理学部の校舎は大蔵省に移管し，その見返りとして本年度に計上された予算により，6月30日入札，7月中旬着工さるることとなった。着工さるる建物は文科系と一般教育課程の教室，鉄筋コンクリート4階建と古い校舎（元兵舎）

の改築するもの合せて1,400坪，既設自然科学教室の建増分440坪，合計1,840坪に上るものであって，この建設は37年に継続増築される。なお薬学部の着工は37年度に予定され，学生の厚生施設としての寄宿舎，学生会館も，同年度に建設さるる予定である。この他教官の学位取得，外遊に触れ，次いで学生の入学状況，就職の模様，更に人事，予算，研究費，建設工事について縷々述べるところがあった。このあと大島学生部長から学生運動のあり方や，赤谷山遭難事件についての説明があった。ここで35年度の決算報告，36年度の予算審議と進んだが，これ等に対する質疑として，父兄より後援会の計画，集中計画実施に伴う敷地の狭隘，後援会事務専任者の待遇，会費納入の実績など，後援会に理解と同情溢るる質問が次々と出された。終って役員改選に移ったが，この間に梅原名誉会長の挨拶があり，顧問に選ばれた高辻氏の挨拶があって総会を終えた。

各課長の更迭

ことし厚生を除く各課長の異動は，3月1日付の施設課長を皮切りに，4月1日付で庶務，会計，学生の各課長が更迭された。これは学生数3,000人以上の大学の学生部に次長制が敷かれたのに関連する異動といわれているが，なんにしてもかかる課長クラスの一斉異動は，今までもなかったことである。

まづ新任課長の略歴を記して紹介し，他へ転出された方々の閲歴，人物，功績など記して餞けの辞としたい。

村上虎太庶務課長

文部省大臣官房人事課給与班給与第4係長から転任
福岡県出身，大正10年1月17日生
昭和16年　福岡県立師範学校卒
　27年　立正大学文学部地理学科卒
昭和16年　以後，福岡県下の小学校訓導，中学校教諭を勤めて昭和22年文部省に入る
　23年　文部事務官となって教職員適正審査の仕事に業わる
　28年　大臣官房人事課勤務
　31年　同人事課給与班勤務
　33年　同人事課福祉班厚生係長
　35年　同人事課給与班第4係長
　36年　本学庶務課長

藤野博次会計課長

和歌山大学会計課長から転任
和歌山市出身，明治45年3月12日生
昭和6年　中学卒
昭和6年以来約10年研究所や商店や気象台等で勤務
　16年　本省雇となって大臣官房会計課に勤務
　21年　事務官となって教育施設局大阪出張所に勤務
　22年　同出張所の庶務課長
　24年　同資材課長
　25年　和歌山大学会計課総務係長
　28年　同大学学芸学部事務長
　31年　同大学会計課長
　36年4月　本学会計課長

寺西礼一施設課長

福井大学施設課企画係長から転任
福井市の出身，大正4年10月10日生
昭和11年　福井高等工業学校卒
　11年　台湾総督府専売局庶務課勤務
　13年　台湾で応召，上海戦に加わり負傷　入院
　14年　応召解除
　15年　復職，専売局技手
　22年　内地帰還，教育施設局名古屋出張所勤務，文部技官
　24年　文部教官，福井工業専門学校勤務
　25年　文部技官となって福井大学施設課企画係長となる
　36年3月　本学施設課長

鈴木定次郎学生課長

信州大学文理学部事務長から転任
山形県出身，大正5年11月30日生
昭和13年　早稲田大学専門部政治経済科卒
　13年　満州国協和会勤務
　18年　東山産業株式会社馬来半島各事業所勤務
　23年　文部省管理局教育施設部勤務
　25年　文部大臣官房人事課勤務
　31年　信州大学文理学部事務長
　36年　本学学生課長

小原太嘉之助課長

課長は島根県人ながら早くから家族とともに北鮮におられた。従って出身校も京城高等商業である。その後実業学校畑で教諭を勤むる傍ら書記をも兼務した。

終戦後，郷里島根の中学に教鞭をとったが，23年文部教官となって福井師範の教授に任じ，24年大学に包括せらるるや，事務官専任となって初代庶務課長となり9年間在職，33年本学庶務課長に転じて今日に至ったものである。

課長はことし51才，油の乗り切った年ばえであり，スポーツで鍛えた見るからにがっちりした体軀の方である。事務官としては専任12年で決して長いとはいえないが，もともとその専門が商業であり，大学の事務管理，経営技術には抱負があったようである。昨年の夏行われたＪＳＴ研修会の催しも学内全般の事務管理についてであるが，この抱負実現の努力の一つの現われであったと見ている。

五十嵐尚会計課長

五十嵐課長は東京駒込の生れ，ことし49才である。商業

学校を出た翌年東京工業大学の会計課に勤務，早くも経理の仕事についている。

然かもこの勤務中日本大学専門部で法律の課程を終えている。それから教育畑の会計事務にたづさわったが，昭和26年東京学芸大学世田谷分校の事務長となり，翌年同大学の会計課長補佐となって，29年に本学へ会計課長として転任したのである。その職歴からすれば終始会計畑を一筋に歩るいているのである。

氏の本学における在職7年間は五福地区集中計画実施の前期に属し，この間集中に伴う建設整備の仕事に業わり，氏は会計予算の面からその促進に貢献した功績は頗る大きい。

性頗るらい落で，表面豪放に見えるが，それでいて会計家としての細い神経をもち合わせていた。酒興至らば，若い課員と一緒に踊り出すという天真の一面もあった。

このたびの転出先神戸大学は景勝の地であり，天下の名酒の産地灘が足下にあるという好環境で，氏にとっては栄転以上に会心の転出であらう。

山田啓祐課長

課長は他の課長に先だって北海道大学の施設課長に転出された。ことし47才の働き盛りである。生地は大阪であるが，小学校は札幌で卒えている。昭和11年福井高工を出るや，街の工務所で勤めていたが，14年退職再び学生生活に戻り，16年東京工業大学を卒えている。併し当時の戦局は職に就くを許さず，直ちに軍籍に入り，陸軍技手として中部軍経理部に配属した。後技師となって同軍の司令部付となったが，終戦となるや復員し，翌年地方技官となって岡山県の土木部建設課員となり，次いで総理庁技官を経て，24年岡山大学施設課企画係長となって国立大学入をした。かくて28年には高知大学施設課長となって，本学へは32年に転任している。従って在職は4年となる。

本学では創立以来専任の施設課長が置かれていなかったので，山田課長が最初の専任者という訳である。課長の任期は4年であるが，その間正門，黒田講堂，本部庁舎，それに附属小学校の体育館や幼稚園校舎の建設工事を手掛け，3月末工を竣えた工学部の工業化学実験研究室は課長最後の仕事となった。

転出先は小学校時代を過した札幌であり，北海道大学であって見れば，課長にとってまさに会心の転出であらう。

紺野定三学生課長

課長はこのたび静岡大学の厚生課長に転出された。

課長は福島県の出身である。大正12年郷里の高等小学校の代用教員を振り出しに福島県下の高等小学校で訓導を勤めていたが，昭和8年一旦現職を退き日本大学専門部師範部に入って，11年3月まで在学，国漢文を専修している。同学を終えると再び郷里若松の高等小学校の訓導に復帰し進んで千葉県の佐久良高等女学校の教諭を勤めている。昭和20年文部省に出向して，事務畑に転身，大臣官房総務局や文書課などで勤務した。24年山梨大学庶務課長に転出したが，27年本学厚生課長として転入，30年補導課長となって今日に及んだものである。

在任7年9ヵ月，相当長い期間であった。

昨年末から課長転出の時までに及んだ山岳部員の赤谷山遭難事件には当の責任者として傷心，骨身を削づる苦労をされた。事件中防寒帽，防水コート，スキー靴といったいでたちで通勤された姿は，今も眼底を去らない。最後まで残された鶴居君の遺体が，課長転出発令の直後に発見されたことは課長への何よりの餞けとなり，心置きなく赴任されたことであらう。

停年退職の諸教官

土生滋穂教授

土生教授は福井県武生の産，大正7年6月東京帝大法学部を卒業している。卒業の年武生中学の教諭の嘱託を受け，1年半ばかり在職したが，再び母校の大学院に入り，13年2月文部省の留学生として法律学研究のため，2年間英独米の3ヵ国への在留を命ぜられている。昭和2年帰国するや，高岡高等商業学校の教授として迎え入れられた。

かくて17年間同校と運命を共にせられたのである。即ち19年高岡高商は経済専門学校となり，三転戦局の要請によって工業専門学校となるや，同校の講師嘱託から同年10月自意退職となった。そして郷里で自適の境地にあったが，その後勝山精華高等学校長に就任した。然かもこの在任中に福井県教育委員に2回連続当選されている。ところが折から文理学部の一学科から昇格した経済学部が強く要望してお招きしたのである。在任中は民法を講ぜられたのであるが，この間学部長，次いで経営短期大学部の主事を併任された。退職後は招かれて名城大学の教授となられた。

南日　実教授

工学部長南日教授は生粋の富山っ子である。大正8年九州大学機械工学科を卒業するや，母校の付属専門部の教授に就任している。次いで10年仙台高等工業学校教授に任んぜられたが，この在任中11年機械工学一般特に水力機械研究のため約1年半の間，ドイツ，イギリス，アメリカへの留学を命ぜられている。昭和9年には同校機械工学科長となり3年在任，同18年には渡台，台北帝大の教授となり工学部材料強弱学講座を担任している。21年同大学の廃止とともに帰還，翌年堀川中学校長，次いで県立富山高校長，県立南部高校長を歴任，27年に工学部講師として本学入りをした。29年教授となり34年横山教授のあとを追って工学部長となって今日に及んだのである。教授の専門といえばその業績として「材料強弱学及び弾性学」「材料力学」などの著書がある。退職後も工学部の非常勤講師として時々銀髪痩身の温容に接することが出来ることは幸いである。

井上音松教授

井上教授は佐賀市の出身，大正11年3月東京帝大文学部教育科を卒業するや，東京私立帝国女子専門学校の講師を振り出しに，旅順工科大学予科教授など勤め，昭和5年帰国するや，東京聖心女子学院講師に任じ，8年には浦和高校教授に任じられている。翌9年には学習院教授となって4年間在任したが，19年9月再び大陸へ渡り，北京市政府教育局学務委員，同局補佐官となり，北京師範大学講師を兼任，終戦とともに帰国した。23年には大阪第二師範学校教授に補せられたが，ここから25年富山大学教授となり，教育学部の教育学を担当したのである。

教授は誰れとも気軽に語り，孫のような学生を相手にしても少しも隔てがなかった。いわば庶民的で瓢逸な風格の方であった。戦時を遠くに見送っている今日も，紺の詰め襟の服を着，将校用のカバンをかけられた姿は，昔ならば奇行の人と呼ばれたであらう。

退職後も長江の住宅に自適の生活を送っていられる。

大西民生講師

大西講師（工学部）は富山大学教官となられて9年である。これが教育者としての経歴の総てである。既往の大部分は次のとおり技術者として民間電気事業に尽されている。

講師は福井県人で，大正8年大阪高等工業学校電気科を出るや，直ちに大阪電気分銅会社の勤務を振り出しに，大同電力へ入社，同社の福井，大野，武生，新淀川ほか数ヵ所の変電所，発電所の主任や所長を次々と勤めている。

昭和14年日本発送電会社が発足するや，嘱託となって設立事務に参画，次いで同社の諸発電所や建設事務所の所長を勤め，同社北陸建設事務所電気部長を最後に，昭和25年同社を停年退職した。然かもこの在職中に県の電気製塩組合の工場長，理事を，また県の或は中部地区の電力使用合理化の委員を勤めて，食糧難，動力難緩和の一翼を担って活動している。退職後その電気に関する学殖と経験を買われて26年工学部の講師となり，電気工学科第三講座を担当主として発電，変電，送電，配電等電力応用の面を担当しておられたのである。退職後も非常勤講師として工学部に通っていられる。

武石勉教授の転出

武石教授は一身上の都合により，郷里の大分大学の経済学部に転出さるることとなった。昭和26年4月就任以来11年になる。

昭和5年東京帝大経済学部を終えるや，直ちに東京朝日新聞社に入り，まづジャーナリストとして出発している。そして在職8年に及んでいる。13年渡満，満鉄本社の調査部に勤務，次いで16年東京支社に移って調査事務に業わったが，20年6月退社して佐賀県公立青年学校の教諭となり，初めて教職に就いている。翌年には大分県に出向を命ぜられ，故郷の日田中学，次いで日田高校の教諭となった。かくて26年文部教官となって，本学の文理学部へ教授として迎え入れられたのである。在任中教授の識見手腕を買われて学生部長の要職に選ばれている。その上数多く委員を兼ねていられた。

ことし56才，教授スタッフの充実が要望される折から，本学を去られたのは惜まれる。併教授としては故郷の大学に勤められるのであるから寧ろ栄転に優る思いであらう。

広瀬コヒサ助教授の退職

教育学部の広瀬助教授は御病気と家庭の御都合で3月限りで退職された。

助教授は婦負郡神保村の出身で，大正14年に東京女子高等師範を出られた方である。学業を終えるや，私立武蔵女子学習院に奉職，昭和4年には高崎高等女学校に転じ，昭和9年郷土に戻られた。そして菊芳女学校，東水橋実業学校の教諭を歴任，12年富山高等女学校の教諭となって，同時に富山師範学校の教諭をも兼ねられた。然かも両校に在勤の際は両校の寄宿舎の舎監を兼ねていられた。

かくして18年師範の文部省直轄に伴い助教授となり，20年教授となって大学に移行，今日に至った。

教育学部では，家政学と食品学を担当，家政科の代表的な教官であった。27年頃不幸病魔の犯すところとなって1年余り療養されたことがあったが，これが遠因となり，一身上の都合も加わって，まだ停年に7，8年もの余裕を残して退職されたことは惜まれる。

佐藤自郎助教授の転出

文理学部の佐藤助教授は4月1日付で名古屋大学の文学部の助教授に転出された。

助教授はもともと名古屋の生れであるから，故郷に帰った訳である。併，中学は長野県の伊那中学を，高等学校は新潟高校を出ている。そのため長野県下と新潟県下で中学や高校の教師を勤めていたが，23年一旦教職を中断，名古屋大学へ入学している。

そして大学を終えるや，愛知県下の高校の講師を勤めて，27年に名古屋大学の助手となり，29年本学の講師となるまで在勤していた。従って今回の転出は母校に帰ったことになる。本学では昨年2月助教授に昇任したばかりである。まだ35才という春秋に富む方であり，在職も僅か7年であるから，今暫しとどまり本学においての大成を望んだのであるが，故郷であり母校であるとすれば，またやむを得ないことであらう。

小竹厚生係長辞職

学生部厚生課厚生係長小竹雀雄氏は7月2日付で辞職された。

小竹氏は昭和21年夏富山師範学校の事務嘱託になられてから15年になる。併し，もともと教職を志して立たれた方で

ある。即ち大正8年富山師範を出てから主として高岡の博労，定塚の両小学校で約20年の長い間教職についている。

また奨められて昭和15年渡支して，在南京居留民国立日本小学校の訓導となり，16年には同校校長となり，更に17年准南日本国民学校長に補せられている。ここで終戦となり，同地の居留民や学童の引揚業務に従って，同年12月帰国した。翌21年7月富山師範学校事務嘱託となり，大学に移行するや，教育学部の厚生補導係長となり，30年に学生部厚生課保健係長，次いで32年厚生係長となって今日に及んだものである。

児島毅助教授の帰朝

昨年4月招へいに応じて渡米，オクラホマ大学でリーン教授の許に，分子物理学の研究をしていた文理学部の児島助教授は，4月25日1年振りで羽田空港に帰国した。

岡崎初雄教授の帰朝

昨年8月文部省在学研究員B項該当者として渡欧，ドイツミュンヘン大学に滞留，クーン教授の許にドイツ文学の研鑽につとめていた文理学部の岡崎教授は，その後滞留期間を5ヵ月間延長して4月25日帰国した。

教授は帰国のため北極回りのエールフランス機に乗り込むべく，4月22，23日の両日パリーに立ち寄ったが，丁度このときアルジェリアで4将軍による反政府の反乱が起ったのであった。然も教授はこのことを知らずしてパリーを立ち，ハンブルグに下り立って該地の新聞により初めて事の全貌を知り，パリーで見た種々相に思い至ったということであった。

山崎，養田両教授の外遊

薬学部の山崎高応教授は，ことしの文部省在学研究員（C項）に応募し，これが採択されて6月1日から向う1ヵ年間アメリカニューメキシコ大学へ出向することとなった。

同教授は，同大学のレイモンド・エス・キャッスル教授の許に，まづ強力な抗腫瘍剤としてのシンノリン類の合成研究から始めて，本命課題である制癌剤の合成研究に従事する筈である。

また工学部の養田実教授は6月15日羽田空港を出発，オーストリーに向かった。同教授は6月18日から主都ウイーンで開かれる国際鋳物会議に日本代表として出席した後，同国の工場を視察見学して，それからドイツ，スイス，イタリー，フランス，イギリスの諸国を巡り8月渡米，ボストンに近いマサチュセッツ工科大学における鋳物ゼミナーに出席する。そして滞米中シカゴ，デトロイト，ピッツバーク等の工業地帯を訪れる。帰朝は9月初旬となるであらう。

三ツ野問治教授の逝去

薬学部の三ツ野教授は4月14日腸閉塞症により急逝された。享年48才であった。

教授は四国伊予の生れ，昭和11年東京帝大を卒業するや暫し副手となってとどまり研究を続けたが，同年10月東京薬学専門女子部教授となって教職に踏み出した。併し戦局の推移は教職にとどまることを許さず，13年傷兵保護院の調剤員として岡山療養所に勤務することとなった。従来傷病保護院は軍事保護院となり，終戦となって厚生省医療局がその事業を引きついだあとも依然調剤官として残り，25年11月に及んだ。かくして富山大学へ助教授となって来任されたのである。

大学在学中から手がけられていた地衣成分の研究はこの間も続けられ，教授の生涯を貫く研究の根幹をなすものであり，またこれにより昭和35年2月東京大学薬学部から薬学博士の学位を得ている。生前の功績に対し，正四位勲四等瑞宝章を授けられた。

永原，酒井両教官学位取

文理学部助教授　永　原　　茂
　取得学位　理学博士（東京大学）
　取得時期　昭和35年9月12日
　学位論文　結合に関する量子論的研究（英文）
　論文主査　東京大学教授　小谷正雄

薬学部助教授　酒　井　立　夫
　取得学位　薬学博士（大阪大学）
　取得時期　昭和36年3月23日
　学位論文　1，2，3，4—Tetrahydro—1—methyl—4 oxo—2—naphthoic Acidの合成とその立体異性体に関する研究
　論文審査　大阪大学大学院薬学研究科委会員

大井信一助教授理学博士に

工学部大井助教授は学位論文提出中のところ，36年5月26日付をもって次のとおり学位を取得した。

学　　位　理学博士
論文題名　有機試薬による比色分析法の研究
提 出 先　東北大学理学部
主査教官　教 授　岡　好 良

昭和35年度卒業生就職状況

（昭和36年3月20日）

学部	学科	卒業者数	進学家事従者	就職状況			備考
				希望者	決定者	比率%	
文理学部	文学科	40	4	36	36	100	四月教員採用見込の者を含む
	理学科	23	4	19	19	100	
	計	63	8	55	55	100	

教育学部	第一中等教育科	59	2	57	50	87.7	上記と同じ
	第一初等教育科	69	2	67	38	56.7	
	計	128	4	124	88	70.8	
経済学部	経済学科	142	8	134	134	100	
薬学部	薬学科	76	5	71	71	100	
工学部	電気工学科	25		25	25	100	
	工業化学科	28	1	27	27	100	
	金属工学科	22		22	22	100	
	機械工学科	22	1	21	21	100	
	計	97	2	95	95	100	
合計		506	27	479	443	92.5	

レクリエーション便り

国家公務員共済組合レクリエーション 卓球大会

1. 日　　時　　昭36.3.17
2. 場　　所　　富山市体育館
3. 参加チーム　　富山大学　職業安定所　労働基準局　農林省(A)　農林省(B)　伏木港湾工事々務所　法務局　検察庁　北陸荘　古里保養園　富山財務部　　計　11チーム
4. 参加選手

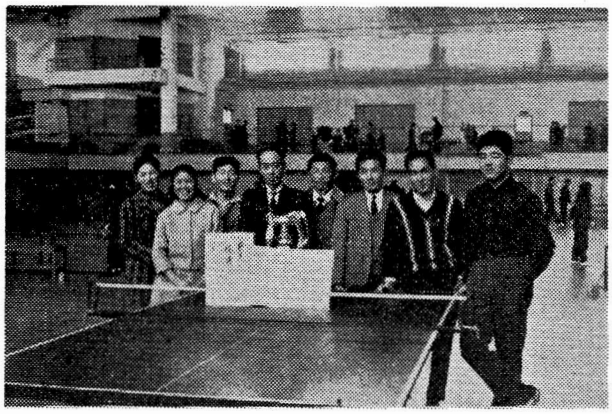
監督	山崎高応
選手	森田直賢
〃	吉崎正雄
〃	吉川和男
〃	山下寿和
〃	長沢義男
〃	清水典行
〃	永森寿子

5. 勝　敗　　◎予選リーグ（Aゾーン）

チーム名	大学	安定所	基準局	農林(B)	勝数	勝点	順位
大学	＼	5	5	5	15	3	1
安定所	0	＼	2	0	2	0	4
基準局	0	3	＼	2	5	1	3
農林(B)	0	5	3	＼	8	2	2
敗数	0	13	10	7	＼	＼	＼

◎決勝リーグ

チーム名	大学	検察庁	北陸荘	勝数	勝点	順位
大学	＼	4	4	8	2	優勝
検察庁	1	＼	2	3	0	三位
北陸荘	1	3	＼	4	1	次勝
敗数	2	7	6	＼	＼	＼



全国公務員レクリエーション共同事業

囲碁，将棋大会

2月28日9時から県職員会館で行われた。ことしの大雪もこのごろとなれば残雪は少なくなり，ことにこの日は晴れた日であったので，室内競技とはいってもやはり快よく進めることが出来た。出場者は囲碁は13機関25チーム（93人），将棋は10機関20名であった。そして囲碁は団体戦と個人戦を，将棋は個人戦をのみ行ったがその戦績は次のとおりである。

囲碁	団体戦	優勝	裁判所Aチーム
		準優勝	建設省工事務所
	個人戦	優勝	板川正三（裁判）
		準優勝	岡部文男（法務）
将棋	個人戦	優勝	杉谷勝克（郵便）
		準優勝	佐伯常二（〃）

卓球大会

3月14日興国人絹パルプ富山工場体育館で開催されたが出場機関は9，チームは10であった。競技は団体戦と個人戦で行われ，団体戦は富山郵便局Aチームが優勝し，北陸電波管理局監視部が準優勝となった。また個人戦では本学文理学部の長沢義男君が優勝，経営短大の土池春樹君が第4位となった。

第7回　大学祭

ことしの大学祭も例年どおり5月28日から6月3日までの一週間行われた。もっとも会場などの都合により，この会期に先立って書道，美術，写真などの展示会が富山商工奨励館で開催され，また工学部自動車部の諸君による四国一周の自動車旅行も，5月27日から6月4日に亘って実施

された。

27日（土）は放課後の2時から県庁前広場で前夜祭が行われたが，例のごとく学生諸君の知のうを絞った奇想天外の仮装行列が会場及び通過の街頭で爆笑を起させた。ここ2，3年来この月は季節に似ず何時も雨こそ降らね冷風が吹いて裸身の群れを震え上らせたものであるが，ことしは真夏の暑さで，今度は衣装組の諸君をうだらしたようだ。行事は次のとおりである。

日		会場
28（日）	9.00〜17.00 囲碁大会	教育学部会議室
29（月）	13.30〜16.00 講演会「安保斗争時とその後の思想的状況」橋川文三氏「現代青年学生論」真下信一氏（新聞会）	黒田講堂
	16.30〜17.00 富大文化サークル連合結成大会	〃
	17.30〜18.30 講演会講師を囲む座談会（新聞会）	〃
	18.00〜20.30 音楽会（音楽サークル）	富山市公会堂
30（火）	13.00〜17.00 各学部学術発表会（各学部自治会）	各学部
	14.00〜16.30 研究討論会「構造改革について」大谷明夫氏（社研）	文理学部会議室
	14.00〜15.00 放送劇（放研）	黒田講堂
	15.00〜16.00 講演会「ユネスコの世界観」（ユネスコ）	〃
	16.00〜17.30 講演と映画の会 講演「アメリカの学生と日本の学生」Mr. William F. Lautz 映画「アメリカの大学生活」（E.S.S.）	〃
	18.00〜21.00 映画「ニエ・アルの生涯」	富山市公会堂
	17.00〜20.30 演劇「狐と狸」「な　た」（演劇部）	高岡市公会堂
31（水）	9.00〜17.00 球技大会	教育学部グランド 工学部グランド
	17.00〜20.30 演劇「狐と狸」「な　た」（演劇部）	電気ビルホール
1（木）	10.30〜12.30 講演会講師を囲む座談会（新聞会）	経済学部
	13.00〜17.00 講演会「技術革新と人間関係」桑原武夫氏「技術革新と日本経済」内田穣吉氏（新聞会）	高岡市公会堂
	16.00〜19.00 ステレオコンサート（ウドの会）	黒田講堂
	13.00〜15.30 弁論大会「現代青年の課題」	文理学部講堂
2（金）	16.00〜17.00 空手演武会（空手部）	黒田講堂
	18.00〜21.00 ダンスパーティ	〃
	13.00〜 講演討論会「現代における学生の任務」花井益一氏 淡路憲治氏（一般教育自治会）	文理学部講堂
3（土）	13.00〜14.00 五福統合に関する諸要求貫徹集会（自治連・寮連・文サ連準備委）	文理学部講堂
	18.00〜21.00 ダンスパーティ	工学部講堂

北陸三大学学生総合体育大会

第13回北陸三大学学生総合体育大会は，7月9日を中心に3日間，福井市において開催。

本学より，学生300名が参加，陸上競技以下16種目の競技を競ったが，富山大学は，男子は卓球，バドミントン，ラグビー（同率），女子は卓球，バドミントン，ソフトボールに優勝，次位に10種目を得た。

ブロック競技大会

新学期を迎え，各運動部では，新入部員を加えて一斉に活発な活動に入ると共に，それぞれ地域毎に，或いは全国的な競技大会に出場，日頃鍛えた腕を競い，好成績を収めたが，本学の主催によって行われた競技は下記のとおりであった。

記

1. 北信越学生柔道優勝大会
　5月28日　富大黒田講堂
1. 北陸学生春季庭球選手権大会
　5月19〜23日　富山市営コート
1. 北信越地区大学野球選手権大会
　6月21〜23日　高岡市本丸球場
1. 北信越学生剣道選手権大会
　7月16日　富大教育体育館

山岳部赤谷山遭難　（続報）

鶴居君の遺体発見

捜索隊　（第3次）

隊長　林　勝次　山岳部長

有沢一男	教官	石黒国雄	教官
佐伯富男	芦峅ガイド	佐伯安治	芦峅ガイド
志鷹三義	〃	佐伯盛一	〃
佐伯栄治	〃	佐伯友邦	

他 8 名

捜索概況

3月31日，富山大学を出発，同日馬場島にて1泊，翌日は全員にて，標高1,600mのキャンプ地に，装備食糧等の荷上げを行う。4月2日は朝から風雨のため沈澱，4月3日晴天，林隊長以下芦峅ガイド並山岳部のO.Bの11名は早朝5時0分にキャンプ地を出発8時30分赤谷山頂附近に到着，雪洞個所とその付近一帯の捜索を行った。

晴天ではあるが強風のため午後2時に到るも遺体発見に及ばず明日を期して下山の途につく。遺体発見はその直後電気通信大学山岳部のキャンプ地点より発見された。

遺体発見の経過

赤谷山頂には3日当時，電気通信大学山岳部のキャンプがあり，捜索隊は同キャンプ周辺を翌日に期するつもりにて，捜索を残したものであるがそのころ同山岳部は当日の強風に堪えうるためブロックの雪を切る作業中，同山岳部の天幕の下に懸かる個所約30cmのところに人の足先と思われるものを発見，下山の途につく捜索隊に連絡したものである。

捜索隊は直ちにこれを掘出し，鶴居宜一君であることを確認，当日のうちに雪崩の頻発する尾根を1,600mのキャンプ地におろしこれを収容した。

またこのことを隊員が馬場島から北陸電力会社の直通電話をもって富山大学に通知した。（午後4時50分）

4月4日午前3時，遺体は赤谷山1,600mキャンプ地を出発同8時馬場島に到着，富山大学から出迎の諸車をもって午後1時懐しの学門をくぐった。遺体は直ちに黒田講堂において家族の手に戻された。

4月5日午前10時同君自宅にて葬儀を営まれた。

学部情報

文理学部

植木忠夫教授の受賞

富山新聞では昭和31年以来郷土の文化発展につくした功績者に富山新聞文化賞をおくり，その功績をたたえておるが，本年3月第6回の受賞者として選定された6氏のうち文理学部植木忠夫教授は富山県に於ける動物生態学の研究者としての輝かしい功績を認められて学術賞を受賞された

日誌

本部

1．1	大雪，市電，バス不通
4	〃　徒歩通勤 赤谷山遭難者救援のため飛来の自衛隊ヘリコプター着陸に備へて五福各部局在勤の職員雪の踏み均しをする
5	午前前日同様の雪踏み均しに全員出動 午後ヘリコプター2機飛来，前後して現場捜査に向ったが何れも空しく帰来
9	第1回捜索隊帰来
11	文理学部移転に関し物理学関係教官打合会
12	同じく化学関係教官打合会
14	赤谷山第2捜索隊14名出発
24	第2捜索隊遺体5を収容帰還 黒田講堂で遺族に引き渡しを行う
25	化学関係教官打合会
2．1	行政監査
6～9	共済組合年次監査
7	学生就職対策本部，職業補導担当者合同会議
10	科学研究打合会（薬学部長他約15名）
11	入学願書受付
15	教育，工両学部長選挙
17	評議会
18	事務協議会
20	入学願書締切
21	短大入学願書受付
23	経済学部長選挙
27	本部職員定期健康診断
28	入学試験打合会
3．3	短大願書締切
6	施設課長着任，事務協議会
10	自然科学教棟建設打合会
15	付属小学校卒業式，評議会
15～16	北陸三大学共済組合事務打合会
16	付属中学卒業式
17	事務協議会，補導協議会
18	付属幼稚園修了式
20	大学卒業式，山田課長離富
22～23	入学試験
25	工学部専攻科選考
29	評議員全員協議会
30	評議会
31	入学試験合格者発表，赤谷山捜索隊20名出発，四十万氏勲章伝達

4．2　短大入学試験
3　事務協議会，武石教授離富，鶴居君遺体発見
5　藤野，鈴木両課長着任
6　村上課長着任
6～7　東海北陸地区会計課長会議，短大合格者発表
10　大学入学式，評議会
12　評議会
14　三ッ野教授死亡
16　紺野課長離富
17　小原，五十嵐課長離富
19　小委員会，三ッ野教授学部葬
22　育英友の会総会
27　工学部工業化学科研究室竣工式
28　事務協議会
5．1　岡崎教授ドイツ出張を終え帰富
8　認定講習会委員会
10　チブス予防接種
12　富山幼稚園協会総会
13　北陸三大学交歓野球大会（金沢大学）
18　短大教官会議
19　評議会
24　土生教授離富
25～26　東海北陸地区学生部課長会議（経済会議室），自然科学教棟教官会議
27　補導協議会
28　山崎教授渡米のため離富
6．1　学部長会議
2　事務協議会
3　〃
8　事務協議会，小委員会
9　後援会総会，評議会
13　学生増募説明会
17　文化部会
27　補導協議会，学生健康保健組合理事会
28　事務協議会
29　認定講習委員会
30　評議会
7．1　〃
5　人事院事務調査
7　評議会
10　事務協議会
12～13　大学後援会，福井大学研修
15　薬学部長選挙，横田教授重任
17　職業補導担当者会議，共済組合監督会議
18　文理学部校舎起工式
20　補導協議会
26　評議会
31　学校図書館司書教諭講習会開講式

文理学部

1.18　学部教授会
26　県及び富山，高岡両市教育委員会と就職懇談会（海老亭）
28　青冥寮卒業生コンパ（学長，学部長事務長等出席）
2．7　谷信一教授講演会（29番教室）
15　学部教授会
27　理学科移転建築委員会
3．6　一般教育委員会
8　学部教授会
10　受験者診断書審査（於学部長室）
13　学部補導委員会，人事教授会
17　補導協議会
29　人事教授会
30　教授会
4.11　学部新入生オリエンテーション，入学者健康診断
12　一般教養オリエンテーション
13　昭和36年度前期授業開始
26　教授，職業補導委員会
27～28　X線間接撮影
5．1　人事教授会
4　移転建築委員会
17　補導委員会，教授会，評議員選挙
24　定期身体検査（学生及び教職員）
6．7　文学科研究懇談会及び移転に関する打合会
13　補導委員会
14　教授会，人事教授会
20　パラチウス予防接種
21　文学科オリエンテーション
23　数学講演一講師九州大学教授柴垣和三雄氏
26　文理学部長候補者選挙管理委員会
28　一般教授会並に人事教授会
7．4　補導委員と寮生の懇談会
5　文学懇話会
10　学部補導委員会，16ミリ映写会「赤谷山に眠る」
12　13週授業終了
13～17　補講，追再試験
14　学部教授会（学部長候補者選挙）

教育学部

35.12．7　紀要編集委員会，教務委員会
14　定例教授会
23　冬季休業（36.1.12日まで）
25～27　富山県公立学校教員採用志願者選考資格検査
36．1.13　授業始め，教務職業補導合同委員会

18　教務委員会
25　教授会
2. 2～3　昭和36年度編入学試験
7　教務委員会，昭和35年度後学期授業終了
10～16　期末試験
15　教育学部長候補者選挙，溝上茂夫当選
17　職業補導委員会
17～22　教育実習
22　教務委員会
20～25　昭和35年度中学校美術科実技講習会（東京学芸大，付属大泉中学校）
28　教育実習委員会
3. 1　教授会
5　入学志願者健康診断書審査
8　教務職業補導合同委員会
10　特別教職課程委員会
14　教授会，補導教務合同委員会
15　評議会，付属小学校卒業式
16　付属中学校卒業式
18　入学試験監督者打合会，付属幼稚園終了式
19　学窓会新入会員歓迎会
22～23　昭和36年度入学者選抜学力検査
30　補導教務合同委員会，教授会，評議会
31　昭和36年度入学試験合格者発表
4. 6　前学期授業開始
10　昭和36年度入学式
11　新入学生オリエンテーション
5. 9　高校教育実習打合会
11～12　文理学部と併設されている教育学部の学部長会議（島根大学）
6. 7～8　昭和36年度日本教育大学協会代議員総会（世田谷分校）
15～16　昭和36年度北陸地区教員養成学部（分校）事務長協議会（新潟大学）
7.19　前学期授業終了
22　夏季休業

経　済　学　部

1.12　教務委員会，教授会（14回），人事教授会，職業補導小委員会
23　人事教授会
26　教務委員会，教教会（15回），人事教授会
2. 2　人事教授会
9　教務委員会，経済学部長候補者選挙管理委員会，教授会（16回），人事教教会
10　後期末試験開始（17日まで）16人事教教会
21　教務委員会
23　経済学部長候補者選挙（花井益一教授当選），教授会（17回）
27　人事教授会
3. 6　人事教授会
9　教務委員会
11　教授会（18回）
13　土生，武石両教授転退任送別会（於河合旅館）
20　学部卒業祝賀会（於１番教室）
22～23　昭和36年度入学者選抜試験（於富山商業高校）
30　教授会（19回）
31　教授会（20回）
4. 3　武石勉教授立山号にて離富（大分大学経済学部配置換）
7　経済専攻科入試打合会
11　新入学生オリエンテーション並びに健康診断，経済専攻科入学者選抜試験，同入学者選考委員会，職業補導委員会
12　前期授業開始
13　教務委員会，教授会（１回）
20　就職懇談会
22　職業補導委員会，職員レクリエーション（呉羽山ヘルスセンター）
5. 4　教務委員会，職業補導委員会，教授会（２回）
13　職業補導委員会
18　定期健診（間接撮影），教授会（３回）
24　定期健診（内診，腸パラ予防注射，計測），土生滋穂元教授しろがね１号にて離富（名古屋へ）
25～26　国立十大学経済学部長，事務長会議　（於大分大学）
6. 6　職業補導委員会
8　教授会（４回），人事教教会
13　職業補導委員会
19　人事教授会，学部運営委員会
20　職業補導委員会
22　教務委員会，教授会（５国）
7. 4　職業補導委員会
6　教授会（６回），学部運営委員会
11　職業補導委員会
14　財務委員会，人事教授会
18　職業補導委員会
20　学部図書委員会，学部補導委員会，教授会（７回）

薬　学　部

1.14　冬期休暇終了
18　教授会
27　人事教授会
2. 1　教授会
4　卒業予餞会（於観光会館）

22　教授会
25　昭和35年度後期期末試験（3月6日まで）
　　遠久寮寮電灯線抵抗検査及び各室の使用状況検査実施
27　人事教授会
3. 6　沖縄学生と職員の懇談会開催
9　射北中学校生徒50名学内参観に来学
14　教授会
16　入学試験事務打合会
20　卒業式，修了式（於黒田講堂）
22　入学試験
30　教授会
4.11　新入学生学部オリエンテーション，健康診断
12　前期授業開始
14　教授三ッ野問治死去
　　カリキュウラム委員会
　　東京大学薬学部長伊藤四十二教授特別講演
15　教授会
19　故三ッ野問治教授薬学部葬（於富山新庄教会）
22　薬友会主催新入学生歓迎会
26　人事教授会
5. 2　教授会，北信越準硬式野球大会参加準優勝（於新潟）（4日まで）
4　関西医歯薬軟式庭球大会参加（於大阪）（6日まで）
5　昭和25年度卒業生一行来学
6　人事教授会，昭和16年度卒業生一行来学
10　旧職員矢田幸造死去
11　山崎教授渡米学部歓送会
14　昭和5年3月卒業生一行来学
17　学部移転に関する懇談会
18　教授会
19　定期健康診断（間接撮影）
22　教授会
24　定期健康診断，腸，パラチブス予防接種
25　新制国立6大学薬学部長会議（於名古屋）
26　国公私立薬科大学（部，科）長会議（於蒲郡）
28　薬学部運動会，山崎教授渡米のため富山駅出発
30　教授会
31　開学記念日
6. 1　山崎教授アメリカへ出張のため羽田空港出発
2　定期健康診断（直接撮影），カリキュウラム委員会
5　講座主任会議
6　学長，事務局長と懇談会
7　人事教授会，教授会
14　教授会
19　教授会
25　日本薬学会北陸支部第12回例会（於富山）
26　教授会
28　人事教授会
30　教授会
7. 3　カリキュウラム委員会
5　教授会
10　職業補導委員会，夏季休業に入る　（9月5日まで）
11　教授会，関西薬学生連盟総合大会参加　（於名古屋）（14日まで）
15　薬学部長候補者選挙，教授会
18　第14回日本薬学大会（於札幌）（21日まで）
31　教授会

工　学　部

1.18　教授会
2. 1　人事教授会
15　教授会
18　人事教授会
3. 7　教授会，人事教授会
22～23　入学試験
30　教授会
31　教授会
4.11　オリエンテーション，身体検査
26　新設化学実験室竣工検査，人事教授会
27　新設化学実験室竣工式
5.10　腸，パラチフス予防接種及びレントゲン間接撮影
　　人事教授会
12　今井，近藤両博士の講演
24　教授会
6. 6　定期健康診断
7　教授会
14　人事教授会
24　教職員レクリエーション（山中温泉）
7. 5　教授会
12　人事教授会
17　教授会
8. 2　教授会

経営短期大学部

1.20　短大事務係新設
2. 4　2年次後学期授業終了
11　1年次後学期授業終了
14　学期末試験開始（24日まで）
21　短大受験願書受付開始（3月3日まで）
3. 3　教官会議（4回）
4　入学志願者健康診断証明書審査
6　入学志願者調査書審査

17　短大，経済学部合同委員会
4. 2　昭和36年度入学者選抜試験
6　専任教官会議（1回）
7　入学許可者選考委員会，専任教官会議（2回）
8　入学許可者発表
14　編入学志願者選考試験，専任教官会議（3回）
16　第3回入学式，学生定期健診（1年次）
17　36年度前学期授業開始
19　学生定期健診（間接撮影）
20　専任教官会議（4回）
21　学生定期健診（2，3年次）
22　新入学者歓迎会
24　専任教官会議（5回）
5.16　前学期分授業料減免選考委員会
18　教官会議（昭和36年度第1回）
29　専任教官会議（6回）
6.19　専任教官会議（7回）
24　第6回全国国立短期大学部学長，主事会議（於東京）
7. 4　専任教官会議（8回）
9　ソフトボール大会
15　専任教官会議（9回）
22　前学期正規授業終了
24　補講，専任教官会議（10回）
25　専任教官会議（11回）

附属図書館

1. 9　時間外閲覧開始
25　図書館懇談会
2.10　事務打合会，商議会
3.16　事務打合会
18　商議会
24　教官，学生閲覧室入試採点場に使用
4.10　夜間閲覧開始
25　事務打合会
5.17　県図書館協会総会
18　間接撮影
6.10　司書講習会打合会，科学文献情報に関する打合会
17　北陸三大学E.S.S交換会（視聴覚教室）
7. 6　事務打合会
10　商議会
22　工学部分館長池田正夫発令（7月13日）
31　本学主催学校図書館司書教諭講習会開講

職員住所

新任者住所

事務局
事務官　村上虎太
〃　藤野博次

学生部
事務官　鈴木定次郎

文理学部
技官　立野昌郷

教育学部
講師　広瀬禧七郎
〃　藤谷喜久子
事務員　清水寛
事務補佐員　大房進
〃　安部吉孝

経済学部
事務補佐員　奥田重男

薬学部
事務補佐員　住伯光雄

工学部
助手　佐藤恭一
〃　能登谷久公
〃　大坪幸子
教務員　坂下和子
事務員　加賀見実

短大
助手　田村茂夫
〃　飯田修三

住所変更

文理学部
教授　清水輝次
〃　西山勤二
助教授　横山泰
〃　平田一郎
講師　平田純
助手　日南田俊二
用務員　中島政次

教育学部
講師　藤谷喜久子
〃　安藤幸
事務官　小川君子
技官　結城善之
事務補佐員　大房進

経済学部
助教授　岩淵富治

工学部
助手　佐藤恭一

事務員　山口清一

技能員　椿原重行
短　大
助手　長砂　実
〃　泰地靖弘

電話開通

経済学部長宅　富山市蓮町教員住宅

特別寄稿

日本学術会議から大学図書館の整備拡充に関し政府に勧告

村上清造

去る4月の第33回総会の決議にもとずき，政府あて下記のうような勧告がなされた。今日まで，日本の学会でこのようなことがとりあげられたことは，全くなかった。本学においても，図書館についての関心が甚だ少ないようである。大学の目的達成に図書館がいかに重要なものであるかは，ここで改めて申し上げるまでもないことであるが，今日までの大学の教職員の大部分の方は，図書館についての正しい認識をもっていられない。そしてまた，正しい認識をもとうという努力もされない人が多い。本学の発展のために誠に遺憾にたえない。以下勧告文をかかげる。速かに大学の目的達成のために図書館の改善のために力をいたされんことを切に望んでやまない。

勧　告　文

昭和36年5月13日

内閣総理大臣　池田勇人　殿
日本学術会議会長代理　桑原武夫

大学図書館の整備拡充について

大学教育の効果を有効ならしめるためには付属図書館が十分にその機能を発揮するよう，その充実と運営の適正を期することが極めて重要であることは言うまでもない。しかるに現在の大学図書館は一般にその蔵書数が極めて貧弱であり，その書庫，閲覧室その他の施設設備が甚だしく不完全であり，更にその職員の数，待遇，身分が不充分かつ不適正であるために，大学図書館としての機能を十分に発揮する上に重大な支障を来している実情にある。よって政府は大学における図書館の機能の重要性に鑑み，次の諸点について適切な措置を講ずるよう勧告する。

1. 大学図書館の蔵書を充実するために必要な財政的措置を講ずること。
2. 大学図書館の書庫，閲覧室その他の施設設備の拡充と整備をはかるために必要な措置を講ずること。
3. 大学図書館の職員数を適切な水準まで増員し，かつ大学図書館職員としての専門職の制度を確立する措置を講ずること。

○提案理由および説明

1　蔵書数

A　大学図書館は大学が研究機関である点から大学教官の研究に必要な多数の図書資料を収集して利用に供すべきことはもちろんであるが，わが国の大学はきわめて少数の大学を除いては，この面での蔵書数が極めて貧弱である。その計画的な拡充を図る措置を講じない限り，大学教育の効果を高めることはおぼつかない。

B　新制大学はいわゆる単位制による教育を行っているが，これは1時間の講義に対して2時間の自習を課することを立て前としている。この制度の特色を生かして教育効果を高めるためには，これまでの大学とは飛躍的に異った水準において学生の自習のための図書を多数に用意して学生の自由な利用に供し自習に支障のないようにすることが必須の条件であるが，この面での図書の拡充は予算の関係上極めて困難な実情にあり，そのために学生の自習を重んずる単位制そのものも有名無実になり，学生の学力低下の重要な一因となっている。学生用図書の拡充は極めて急務である。

2　施　設

A　大学図書館は図書の倉庫ではない。研究，教育機能の中心として書庫，閲覧室，特殊施設室を有機的に設置し拡充すべきである。

B　現在なお多くの大学図書館が木造であるのはむしろ非常識である。速やかに不燃性建築とすべきである。

C　書庫面積が蔵書数の増加に対応して増加していない大学図書館が大部分を占めている，単なる倉庫としても不十分であるのみならず，管理，運営に重大なる支障をもたらしている。

D　学生数の増加に対応する閲覧室の増加も，ほとんどの大学に於て実現していない。マイクロフィルム視聴覚などの特殊施設においても早急に整備する必要がある。

3　図書館職員

A　図書館職員の定員は，教官，学生数および蔵書数の増加利用度の上昇に対応する増加を示していない。最少限の臨時職員を加えて辛じて運営しているものが大部分である。職員1人当りの冊数，利用者数は過重であって有効に運営できていない。

B　図書館職員の業務は，一般事務職員の業務とちがい，特殊専門の知識と技能を要し，熟練を要する。とくに研究者に対するサービスに於ては最高の知識を要する。そのために専門職員，司書等を養成する機関が設置さるべきである。現在は文部省図書館職

員養成所のほか2，3の私立大学に図書館学科があるにすぎず，より高度の養成機関を必要とする。

C　専門的に訓練された図書館職員を，一般事務職員と区別し，特殊職種とし（例えば教官職に準じた職種）て，待遇の向上を図るべきである。現在，図書館職員養成所等において司書の資格を与えられても現実に大学図書館においては，一般職員と区別されていない。したがって永く図書館にあって，高度の専門職能をもつに比例して，一般事務職員よりも不利益になるという矛盾を生じている。そのために図書館職員を確保して熟練と技能を高めることを不可能としている。図書館機能が麻痺するのは当然である。速やかに司書職のごとき職種を設定すべきである。

4　予　　算

図書館予算は大学において独立せず，本部予算に依存しているのが一般の状態である。図書館はその性質上，独立の予算とすべきである。特に図書数や利用度も漸次増加し新らしい機能も（マイクロフイルム，視聴覚利用）発達し，大学間の相互利用の機能も必要となるなど，独自に予算をもって運営するを要する事業が激増している。故に図書館独自の予算を計上し，施設費，図書購入費，物件費，修理整本費，目録作成費等，図書館に於いて専門的に予算を組み，その経理を独自に行うべきである。

（学報第20号に載せた小生の小論とあわせ読まれんことを村上生）

滞　米　所　感

児　島　　毅

オクラホマ大学は，石油の都オクラホマ市の南27粁の大学町ノーマンにあり，大学院づきの州立大学である。学生はほとんど白人で，黒人は皆無といってよい。日本人学生は6名（中3名は大学院）いた。

独身の学生は主に大学の大学寮，又は社会団体の経営するソロリテイ（女），フラッタニテイ（男）に住むが，多くは在学中に結婚し，アパートに移る。大学には育児施設，幼稚園が付属しており，昼間は子供をあづけて夫婦共に学業にいそしむことができる。

その他，大学所属の発電所があり，安定な電力を供給してくれるし，理科関係では電子計算機2基，液体ヘリウム装置など，設備の充実している点では日本とは比較にならない。

よく東大とこのオクラホマ大とどちらが大きいかと聞かれて返答に窮したことがある。

学期は正規の秋と春の2期の他に，夏の学期には有名教授の特別講義がある。中年の教授，助教授で年俸（2学期分）9,000～12,000ドルで，その上，夏の学期の分や会社の依託研究などがあるから充分な研究生活ができるのがうらやましい。

対日感情はよく，親しみをもって話しかけてくる人が多い。また，あかの他人でも通りで出会うと「ハロー」と挨拶する。西海岸では日本人が多く，まれには留学生クズレもあり，日本人の評価はあまり高くないと聞くが，中部，東部の方では日本人というと一応敬意を表してくれる。黒人の差別待遇で問題を起している南部アラバマ州付近では，東洋人そのものが珍しく，街を歩いてもあちこちの店から私を注視していて気味悪く感じた。

一口に白人といっても，顔の形，髪の色，眼の色など多種多様で，世界的植民地を思わせる。兄弟でもあまり似ていないし，髪の色など異るのが普通である。このように多数の人種が集って一国を形成し，しかも平和な生活を営んでいることは驚異に値する。たとえばピストルが自由に売られており，人のいない広場へ行って実包射撃を楽しむことができる。しかもピストルによる犯罪はほとんどない。近代国家は法律のみでできるものではなく（米国の自動車運転の交通法規はわづか数頁である），教育の力の偉大さに感心させられる。

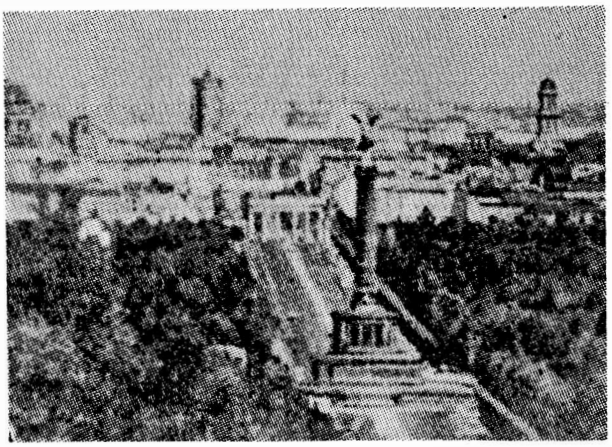
日本から米国を訪問する人達の多くは，単に訪問者であり，ホテル生活者である。私は幸に1年有余，米国の一住民として生活することができた。従って米国の悪い面もいくらかは知ることができたでのある。それは決してスラム街や黒人街といった面ではない。いわば日本人の趣味に合わないもの，「ドライ」の一語につきましょうか。

ド　イ　ツ　の　大　学

岡　崎　初　雄

現在，西独即ちドイツ連邦共和国には総合大学が18，工業大学が8，専科大学が6ある。私は昨年8月21日から1週間コペンハーゲン大学で行われた第2回国際ゲルマニスト会議に出席したのち，西独ミュンヘン市に約8ヵ月滞在，ミュンヘン大学ドイツ文学の各学期の講義演習を聴講した。この間国内旅行によって12の西独総合大学を訪ねることができ，ベルリンの東西を真直ぐに貫らぬく広く長い大通り，昔はウンタン・デン・リンデンといったが，今は西は「7月12日」通り，東は「スターリン・アレ」という。その境界をなしているのがブランデンブルグ門で，この門をすぎ東へ約5分歩むとフンボルト大学がある。それは旧称ベルリン大学でゲーテと親交のあったプロイセン文部大臣ウイルヘルム・フオン・フンボルトの創設したもの，今はもちろん東独の所管で向い側の国立劇場とともに爆撃から復源していて，昨年は創立150年に当り「フンボルト大学の理念」などの記念出版が出た。西ベルリンの郊外にヘンリ・フォードの資金によるモダーンな建築，ベルリン自由大学がある。これとマインツおよびザールブルユ

ツケンの3大学は戦後創設された新しい大学である。ボーデンゼーの湖畔，コンスタンツにもう一つ新しい大学をつくろうという声があるが，まだ実現していない。



西ベルリンから東ベルリンを望む。中央の通りが旧ウンタンデンリンデン通り，先方のがブラデンブルグ門（東西ベルリンの境）

大部分のドイツの大学は一般に古くから存続している。ヨーロッパにおける草分けの大学はプラーグ（1348），ウィーン（1365），ハイデルベルグ（1386）といわれ，ミュンヘン大学も1472年の創立で，いまから5，6百年前ドイツ中世後期に発しているのである。ゲーテの「ファウスト」最初の独白でおなじみの，哲学，法学，医学，それに加える神学の4学科は中世以来の大学の4部門である。

現在ミュンヘン大学にはこの4学部のほかに国民経済，経営経済，森林経済学を含む国民経済学部，歯科が医学部に含まれ，獣医学は学部として独立し，薬学を含む自然科学部がこれに加わって神学，哲学，法学部と合せて7学部がある。北ドイツは平地になっているが，南ドイツは丘地が多く両者を通じて森林が多い。ミュンヘンは南独バイエルンの首都で，富山市と立山に当る距離にドイツの最高峰ツークシュピンがある。郊外の湖，山至るところに森林があり，北緯45度，曇り日や霧の夜は日本の北国よりも多い。ウエバーのオペラ「魔弾の射手」の持つふんいきが十分理解できる。

ヨーロッパの大学の本館は一般にアウラ（大講堂），学長室，人文科学，自然科学の講義室を必ず含むのが通例であるが，ミュンヘン大学の本館もその通りである。そのほかに大学図書館，文学部各専門学科別の図書室がある。ドイツ国語学（内容は国文学）では大きな4つの部屋の壁にはぎっしり書物が詰っていて，学生（主として演習の準備，学位論文の準備）は入口でカバンを預けノート一冊を持って中の机に向って自由に書物を取り出して研究する。200人以上無言で真剣に読み書きしていて，朝から満員で席をとるのに苦労する。一方，授業時間割は朝8時から夜8時まで組んであり，名誉教授，主任教授の講義は最もよい時間に組んである。正教授以外の助教授講師にもちろん個室があるはずがなく，大学図書館の閲覧室が控室になっている。学長室と事務局長室，専門学科の図書室に並んで事務室が一つあるが，いずれも小さく事務員は2人ぐらい。

但し正教授室には5人の助手（皆博士）が交替で面談の時間を持ち，教授面接の日と合せて毎日質問の時間が設けてある。これを眺めると日本の戦後の大学は事務大学の感を禁じえない。702代目の学長であるシュペーヤ教授は文学，自然科学の学位を持ち森林経済学の専攻である。冬の学期は11月にはじまり2月末までであった。学期始めの日に学長就任式があった。私はボルヘルト名誉教授の招待を受け出席した。一般に教授は65才で定年であるが，それは国家試験，学位審査の任務から退くことで，講義演習の出講は本人が辞退しない限り変らない。第1回国際ゲルマニスト会議の会長である70才を超えたボルヘルト教授はなお8時間の講義演習を担当していられる。学長就任式は伝統と色彩のあるものであった。青，緑，黄，赤など学部毎に異なる色のガウンを着，帽子を着けた教授たちが，前学長新学長を先頭に行列をつくって入場し，アウラ正面金のモザイクの月の神像の前にしずしずと着席する。国立管弦楽団がこの間聞きなれぬ古い曲の音楽を演奏する。演壇をめぐって大輪の菊花が飾られていたのが印象的であった。この伝統的な様式はのちにクーン教授によって招待されたバイエルン学士院総会の時も同じであった。新学長の就任講演は「今日の森林経済」，学士院総会のプアイファー教授の記念講演は「語学（フイロロギー）の歴史」であり，いずれも純学術的なものであった。

フイロゾーフイシエ・フアクルラートという言葉はそのまま訳すれば哲学部なのだが，内容から文学部と訳されている。中世の4学科における哲学は，自然哲学を重要なものとしていたが，自然哲学は今日の自然科学に発展し，新しい学科に分離独立した。残った人文哲学としては重要なものが文学，芸術に代表されるので日本語に文学部と訳されるのであろう。しかしマールブルグ大学は現在なお中世と同じい4学科，4学部である。すなわち哲学部(文学部)の中に数学，物理化学など近代自然科学の専門学科が含まれている。このようにドイツの大学を眺めると，大学の歴史は古いにもかかわらず，あるいは古いが故にそれだけ基礎の学術研究が重要な中心をなしていて5，6百年を通じて大学の理念や構成があまり変らないように思われる。この点，日本の大学は応用，実用の所謂科学技術が過大評価されて非常な無駄をしているのではなかろうか。建築においてもその通りで，安田講堂や黒田講堂など，式や講演に使うだけで本来の授業には使い難いように，本館と別に建っている。大学の組織においても無駄が多い。何々委員会が多すぎる。授業の学科目が多すぎる。教授が安んじて研究に没頭できないのではないか。

ドイツの大学の本館に入ると玄関の間の左右に人文科学

と自然科学関係の講義題目が専門科目別に掲示してある。体育実習や音楽の講義などもちろん見られない。自然科学の実験実習は研究所で行うもので本館では講義だけである。テユービンゲン，ゲツチンゲン，ハイデルベルグ，マールブルク大学などは人口5，6万の小都市にあって，所謂大学町をなし本館は町の中心にあっても各学部は町全体に散らばっている。それに自然科学の基礎研究として忘れてならないものは，大学町にはもちろん西独40箇所にあるマックス・プランク研究所である。

私がクーン教授より「日本の大学について」の小講演を求められ，博士課程のゼミナールでお話したが，日本の大学はアメリカのそれに非常に似ているという感想であった。事実戦後アメリカの教育使節団の助言によって出来たのが今日の新制大学である。ドイツの大学制度は戦前と戦後に変ったものはない。ドイツ人の考え方についても同じ印象を受ける。日本では本来の学術と職業のための技術教育とがあまり混同しているのである。

ドイツでは大学に入学試験がない代りに，アビトゥアという難しい高等学校の卒業試験がある。大学に入いるのはアビトゥアを持つものが学期毎に65マルクを添えて登録すればよい。その数はミュンヘンが第1で，ハイデルベルク7千，ベルリン自由大学も1万2千，ミュンヘン大学が2万以上である。学生には卒業試験がない。国家試験の合格と学位をえることが卒業に相当する。その数は極めて少なく中途から就職するものが多い。この点，日本の大学では入学さえすれば，60点平均の合格であらうと90点平均であろうと卒業し，社会では同一の資格給料で就職する。ドイツでは実力のない資格や学位は与えない。演習を2度欠席すればオミットである。だから学生の勉強ぶりは自然熱を帯びることとなる。

要するにドイツの大学は精選主義であり，これは学生のみならず教授の詮衡についても同様である。国民は当然のこととしてこれを怪まない。同時に大学や教授に対する一般の尊敬は想像以上である。また教授や学生の礼儀正しいことも私の強く感銘したところである。

外国人学生はアメリカ，イタリヤ，イギリス，ギリシヤ，イラン，トルコなど各国から多数ミュンヘン大学に留学しているが，会話はすべてドイツ語であって，これがまた一つの礼儀でもあるように思われた。

発行者　富山大学庶務課
印刷日　昭和36年10月1日印刷
印刷所　北陸印刷株式会社